



長野県 上田市  
令和2年 日本遺産認定

レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」

龍と生きるまち 信州上田・塩田平

# 令和2年度 上田市日本遺産補充調査報告書

2021.3

上田市日本遺産推進協議会

# レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」物語

## ～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～



日本遺産とは、文化庁が認定した、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーであり、各地域の魅力あふれる有形・無形の文化財群を、地域が主体となって整備活用し、国内外へ発信することで地域活性化を図るものです。(全国104件、県内4件認定)

弘法大師ゆかりの前山寺



安楽寺八角三重塔

別所温泉の岳の幟行事



ささら踊り(岳の幟)

独鈷山と舌喰池



前山寺三重塔

別所線の千曲川橋梁



レイラインに沿って走る別所線

## 「信州の学海」

上田は、険しい山々に囲まれた盆地ゆえに、本州では一番雨の少ない地だ。「おてんとうさま」が毎日のように微笑み、穏やかな気候という特徴は、信濃国分寺が置かれたこと、鎌倉北条氏の一派が終の棲家としてここを選んだ理由でもある。

塩田平には数多くの寺社が建てられ、中国の高僧や多くの学僧が訪れたのは、山を背に構える別所温泉があったことが大きい。豊かな湯で心まで洗われる温泉の楽しみがあったからこそ、僧たちは、この地を訪れたのであろう。

別所温泉にある安楽寺を訪れてみると、薄暗い木立の中、見上げるように階段を登った先に、日本唯一の木造八角三重塔が目飛び込んでくる。微かな光の方向に仰ぎ見る屋根裏の華やかな木組みは、私たちを自ずと厳かな気持ちにさせてくれる。しかも「四重塔」にも見える不思議な形だ。

また、北向観音堂は、善光寺と「両参り」すると御利益が増すという。境内の手水(ちょうず)までも温泉を使い、湯煙が立ち上がる境内には温泉の匂いが漂う。見晴台に立つと、塩田平から市街地までを見渡せ、我はこの地に降り立ったのだ、という気持ちにさせられる。この地が僧たちにとって「**特別な場所**」であり、「別所」と名付けられたことも納得できる。湯煙が漂う地に花開いた仏教文化の遺産は、湯浴みの効能のみならず、訪れる人々を癒している。

## 神宿る「山」への祈り

上田の雨が少ない気候は、風雨が引き起こす災いからこの地の暮らしを守ってきた。しかし、それゆえに神は時として干害などの試練を課してきた。人びとは水源となる山々に神を崇め、祈り、恵みの雨を願った。

500年以上も続く雨乞いのまつりである「岳の幟(たけののぼり)」は、色鮮やかな幟が特徴的だ。「下り龍」を描いた幟で、夫神岳山頂に祀られた「龍(オカミ)」と呼ばれる九頭龍神を山麓の別所神社までお連れする。龍をかたどったたくさんの幟を迎えるのは、三頭獅子とささら踊りの子どもたち。カラフルな幟と衣装が鮮やかに映え、山間に歌声と太鼓の音が響くころには、本当に、龍からの雨に恵まれる。

山には、古より受け継がれてきた水への憧れと神への畏怖が投影される。龍が宿るこの山は、山菜や松茸など、山の幸をはぐみ、マツタケ小屋の隆盛につながっている。

## 祈りの言葉は「アメフラセタンマイナ」

塩田平はため池を造って水を蓄え、ここで温めた水を田んぼに入れて稲の生長を促し、「塩田三万石」と呼ばれる上田随一の穀倉地帯へと変身した。ため池でも「百八手」と呼ぶ雨乞いのまつりが行われる。池の周りを大勢で囲んで「たいまつ」に火をつけ、もくもくと上がる煙のなか「アメフラセタンマイナ」と唱える。ため池は稲穂をはぐくむだけでなく、マダラヤンマなどの命もつないできた。人柱やカツバなどの伝説は、ため池にも神を崇めていたことをうかがわせる。

雨を願う人びとは、時に荒療治として路傍のお地藏様を川へ放り込んだ。ここでも祈りの言葉は「アメフラセタンマイナ」。お地藏様を怒らせてでも、龍(雨)との再会を願っていた。

独鈷山と夫神岳、そして麓の寺社は、常に塩田平の人びとの暮らしに寄り添ってきた。そして、路傍のお地藏様は、また川に投げ込まれないかと心配して、今日も雨雲を待ちながら空を見上げている。これが「山に神、野に仏」とも言うべき、上田の人びとががつないできた「祈りのかたち」だ。

## 未来への懸け橋

このように塩田平には、この地を特別な「聖地」とする景観が遺されている。国土・大地を祀る「生島足島神社」、「大日如来(太陽)」が安置された「信濃国分寺」。生島足島神社は夏至には太陽が東の鳥居の真ん中から上がり、冬至には西の鳥居に沈む。太陽と大地は、この神秘的な光景をレイラインとして現代に遺した。

そして、この「太陽と大地の聖地」に重なるように遺したもうひとつの景観が、100年前から守り続けてきた鉄道・別所線だ。生島足島神社から、別所温泉までの軌道は、不思議なことにレイラインと一致する。そして、駅をつなぐ線路は、空から見ると龍のかたちをしていると言われる。塩田の人びとは龍を特別な神として崇め、祀り、龍とともに生きてきたことを、別所線の軌道に投影して大切に遺してきたのだ。龍の背に乗ってめぐる「太陽と大地の聖地」は、これからも、まぶしいばかりの輝きとぬくもりをもって、訪れる人の心に光を与えてくれるだろう。

## 例 言

- 1 本書は、長野県上田市において令和2年度に実施した、日本遺産補充調査の報告書である。
- 2 調査は、令和2年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用事業）を受け、上田市日本遺産推進協議会が直営で実施した。

〈上田市日本遺産推進協議会〉 会 長 土屋陽一（上田市長）  
副会長 西澤恒幸（塩田平文化財保護協会会長）  
副会長 峯村秀則（上田市教育委員会教育長）  
委 員 中村 彰（上田市自治会連合会会長）  
委 員 川上 元（上田市文化財保護審議会委員長）  
委 員 小林信彦（長野県上田地域振興局商工観光課長）  
委 員 小林 司（長野県教育委員会文化財・生涯学習課長）

調査組織（事前準備・現地調査・整理・報告書刊行）

担当者 和根崎剛・谷口弘毅・内藤佐和子（上田市教育委員会 生涯学習・文化財課）

現地調査協力者 （西内の歴史を学び伝える会）池内宣訓（会長）、今井 裕、小島幸一、  
小林龍夫、滝沢瑛光、滝沢清茂、滝沢博和、滝沢 浩、滝沢正明、  
永井重幸、永井正一、永井敏広、

資料提供者 相原文哉（故人）、手塚正道

写真提供者 岡田光司、八幡正夫 （順不同・敬称略）

- 3 調査は、事前準備、現地調査、整理、報告書刊行を含めて、令和2年10月1日から令和3年3月19日までの間で行った。

## 目 次

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 第1章 調査の目的と方法                     | 1  |
| 第1節 調査の目的                        |    |
| 1 「レイライン」の用語の取り扱い                |    |
| 2 認定エリアにおける新たな構成文化財候補物件の抽出       | 2  |
| 第2章 調査の結果                        | 4  |
| 第1節 「レイライン」に関する補充調査              |    |
| 1 「レイライン」をめぐる動向（研究史等）            |    |
| 2 レイラインに関する現地調査                  | 5  |
| 3 丸子温泉郷エリア（西内地区・平井）の補充調査         | 18 |
| 第3章 調査の成果と課題                     | 37 |
| （参考資料）（令和2年度日本遺産認定申請書から抜粋）       |    |
| 様式3-1 構成文化財一覧表 / 様式3-2 構成文化財写真一覧 |    |

（表紙写真提供 八幡正夫氏）

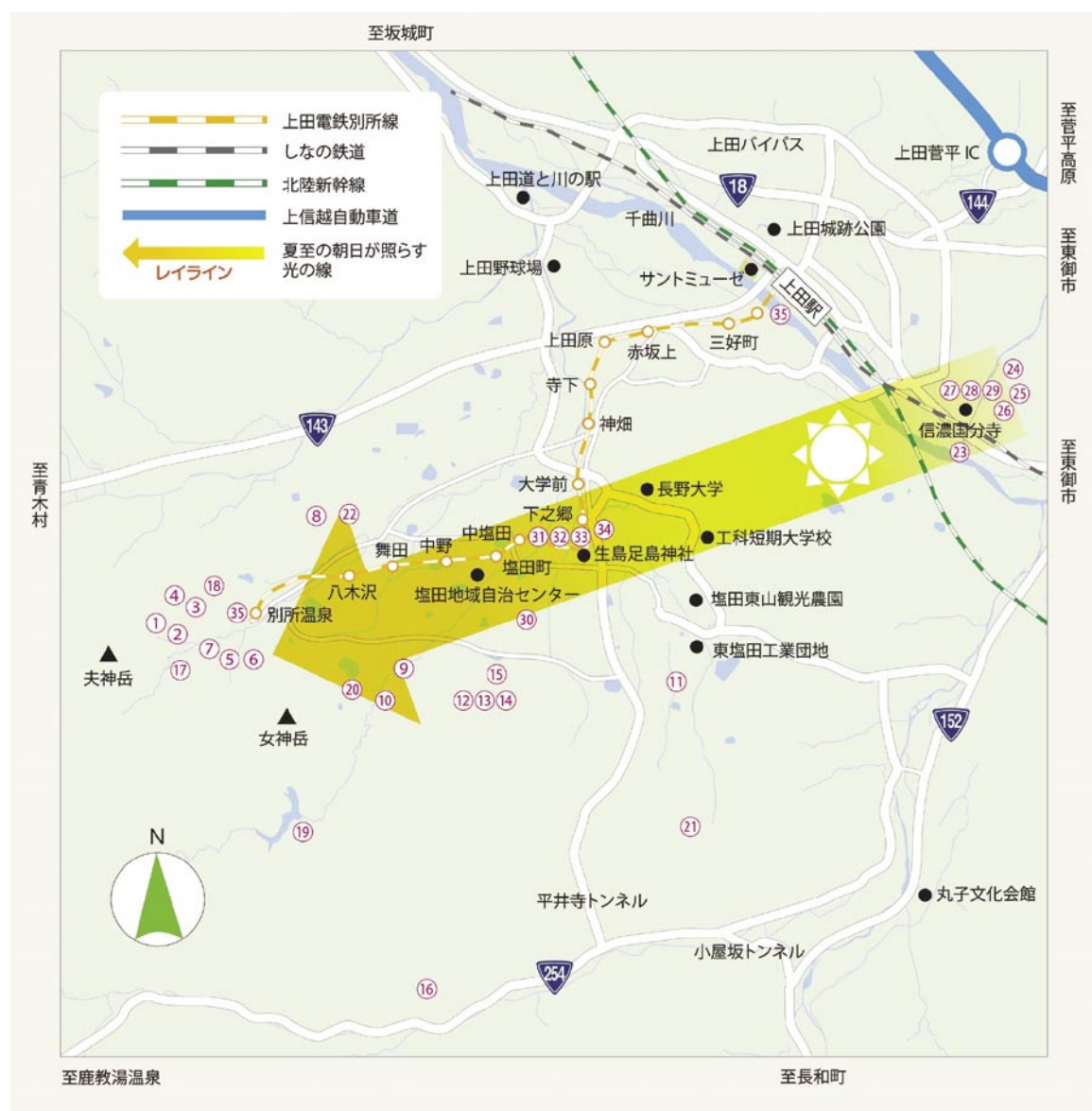
# 第1章 調査の目的と方法

## 第1節 調査の目的

本書で報告する補充調査は、上田市の日本遺産「レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」 龍と生きるまち 信州上田・塩田平」のストーリーを補完し、その魅力アップを目的として、市民への周知の根拠となる情報収集と、新たな構成文化財の候補物件を抽出するために行った。なお、今年度は新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、当初の調査計画を大幅に縮小して実施せざるを得なかったが、次に述べる調査項目について、感染予防対策を講じた上で実施した。

### 1 「レイライン」の用語の取り扱い

「レイライン (Ley line)」とは、「夏至や冬至の太陽が照らす光線に沿って遺跡や文化財が直線的に並ぶこと」とされる。令和2年6月の認定当初から、「レイライン」という用語については、学術的裏付けがないとの御意見をいただく機会が何度もあり、「文化財を行政が「スピリチュアル」な側面から取



第1図 レイラインのイメージ

り扱う」べきではないとの御批判もいただいている。確かに、史跡信濃国分寺跡をはじめ、生島足島神社、泥宮、別所温泉の仏教文化財群の建立は必ずしも同じ時期ではなく、いわゆる「レイライン」を意識して選地されたことを示す資料の存在も確認できない。

今回のストーリーでは「夏至の日の出と冬至の日の入りを結んだ直線」をレイラインと呼び、視覚的なイメージとして「夏至の朝日が照らす光の線」としている。そして、この光線が照らす塩田平周辺には、全国に例を見ないほど、国宝・重要文化財に指定された貴重な文化財が多数存在していることをストーリーの背景にしている。雨が少ない内陸性の気候のもと、「龍と生きるまち」で、山や川などに宿る「神」を畏怖しながら暮らしてきたなかで、住民が太陽を意識して暮らしてきたことは想像に難くない。

しかし、いわゆる「レイライン」をはじめとした太陽と神社仏閣といった文化財との関わりについて、これを具体的に示すことが出来る資料等を、私たちは持ち合わせていないことも事実である。

こうした現状から、レイラインについて多角的に検証し、「太陽信仰」という民俗学的な立場や、レイライン沿いの文化財と太陽との関係性を客観的に説明することが出来るようにし、日本遺産の趣旨である、「地域住民が身近な文化財の価値と魅力を知り、シビックプライドを醸成することで、文化財の保存と観光振興、地域づくりに活用」していくことが出来るよう、補充調査を行った。

## 2 認定エリア内における新たな構成文化財候補物件の抽出

今回の日本遺産認定申請に当たり、国宝・重要文化財を中心に、未指定の文化財も含めて、構成文化財には35件を申請し、認定を受けた（本書40頁）。塩田平を中心に、信濃国分寺周辺、丸子温泉郷、別所線沿線から、ストーリーに関連した文化財を抽出したが、各エリアで構成文化財の数に多寡があり、今後の事業推進に当たって、地域の皆さんの自発的・自走的な文化財保存活用の取組を進めていくために、構成文化財を追加することも検討すべきと考えた。

そこで、今年度はストーリー作成の際に十分な調査を実施できなかった、独鈷山の南山麓（丸子温泉郷エリア）において、下記の調査を実施し、構成文化財候補物件の抽出のための基礎資料とすることとした。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当初計画した西内・東内地区全体の調査を実施することが叶わなかった。来年度は感染症の拡大防止対策を講じながら、可能な範囲で調査を続けていきたいと考えている。

### (1) 龍に関わる文化財、伝説等の所在調査

塩田平と同様に「小泉小太郎」伝説が住民に口伝等されているのか、あるいは、龍に関連した類似する伝説等が存在するか、「西内の歴史を学び伝える会」に依頼し、聞き取り調査あるいは文献調査を実施した。調査は集落の高齢者を中心に実施し、後述するような結果を得た。

### (2) 雨乞いのまつりの所在調査

独鈷山を分水嶺とし、北側が塩田平、南側は西内地区となる。ふたつの山麓で、雨乞いの祭りの分布状況に差異があるか、「西内の歴史を学び伝える会」に依頼し、聞き取り調査あるいは文献調査を実施した。調査は集落の高齢者を中心に実施し、後述するような結果を得た。

### (3) 太陽信仰に関わる文化財、伝説等の所在調査

西内地区平井において、レイラインを太陽信仰との関連で考えることができないかという仮説のもと、太陽信仰と関係が深いとされる、天照大神を祀る社、大日如来の分布状況を把握し、レイライン周辺の文化財の分布状況について検証したいと考えている。そのため、「西内の歴史を学び伝える会」に同行を依頼し、下記の項目について、聞き取りと文献調査を行った後、現地調査を実施した。

ア) 天照大神を祀る神社等の所在調査

イ) 大日如来を安置する寺院・堂庵等の所在調査

ウ) 石造大日如来の分布

ア) は1件、イ) はその存在を確認できなかったが、今後も情報収集に努めたいと考えている。なお、ウ) については、後述するような結果を得たが、保存活用の担い手不足により、お祀り等がされていない物件が多く、今後の日本遺産推進事業の中での位置づけを考える必要があると感じた。



第2図 構成文化財「別所温泉の岳の幟行事」 撮影：岡田光司



第3図 ストーリーの背景とした独鈷山とため池群（舌喰池） 撮影：岡田光司

## 第2章 調査の結果

### 第1節 「レイライン」に関する補充調査

#### 1 「レイライン」をめぐる動向（研究史等）

##### (1) 相原文哉先生による調査

信濃国分寺の鬼門除けとされる国分八幡社で見た冬至の落陽をきっかけに、塩田平から殿城地区へとつながる「太陽の線」に最初に注目されたのが、当時、長野工業高校で教鞭をとられていた相原文哉先生である。昭和58年7月に発行された『信濃路』第42号（信濃路出版株式会社1983）に、「塩田平・古代のロマンを追って 太陽の線」と題し、自身の目と足で確認された事象を数学的見地から分析し、女神岳から王子塚古墳（手塚）、泥宮（上本郷）、生島足島神社（下之郷）、信濃国分寺跡（国分）、大日め神社（大日ノ木）を通る「太陽の線（夏至の日の出と冬至の日の入りを結んだ直線）」が、農業信仰・太陽信仰をうかがわせるものであるとし、信濃国分寺や泥宮、泥宮から遷ったとされる生島足島神社等について、その選地のいきさつ等について推察された。

建築に明るい先生であるが、上田千曲高校に奉職されていた頃には、同僚の手塚正道先生と「太陽の線」の調査にも熱心に取り組まれたのだが、当時この説は地元研究者らには全く受け入れられず、『信濃路』の寄稿の際にも否定的な取り扱いを強いられたとうかがっている。しかし、この後、奈良県大和平野で「太陽の道」が注目されたことにより、相原先生の説に改めて焦点が当たることとなる。

令和2年6月の認定後、手塚先生から、日本遺産認定記念に相原先生が塩田平レイラインを巡る会を開催するとの御連絡をいただいた。まさかこの機会が相原先生とお会いできる最後のチャンスになろうとは。40年という長きにわたり、「太陽の線」に魅了され、生涯を閉じた相原先生の思いを引き継ぎ、今後も塩田平周辺の文化財群の保存活用と魅力発信に努めてまいりたい。

##### (2) 内田一成氏による「太陽と大地の聖地」の提唱

作家であり、聖地研究家である内田一成氏が提唱した、夏至のレイライン（Leyline）の光が塩田平の地形的な特徴により集約されるという説は、別所温泉観光協会で集客イメージとして採用され、「太陽と大地の聖地温泉／別所温泉」というフレーズで、取組がされてきた。日本遺産認定申請の際には、地域の皆さんによる既存の取組をさらに発展させることを願い、タイトルに採用した経過がある。

レイラインについては、文化財との関連で明確な根拠があるとは言えないが、今回の補充調査でも取り組んだ、太陽信仰あるいは農業信仰との関係でレイラインが意識された可能性はないかという点について、塩田平を中心としたエリアで検証し、「レイライン」という言葉が、地域の身近な文化財の魅力アップにつながるような形を目指していきたいと考えている。



第4図 構成文化財「別所線の鉄道施設」 撮影：岡田光司

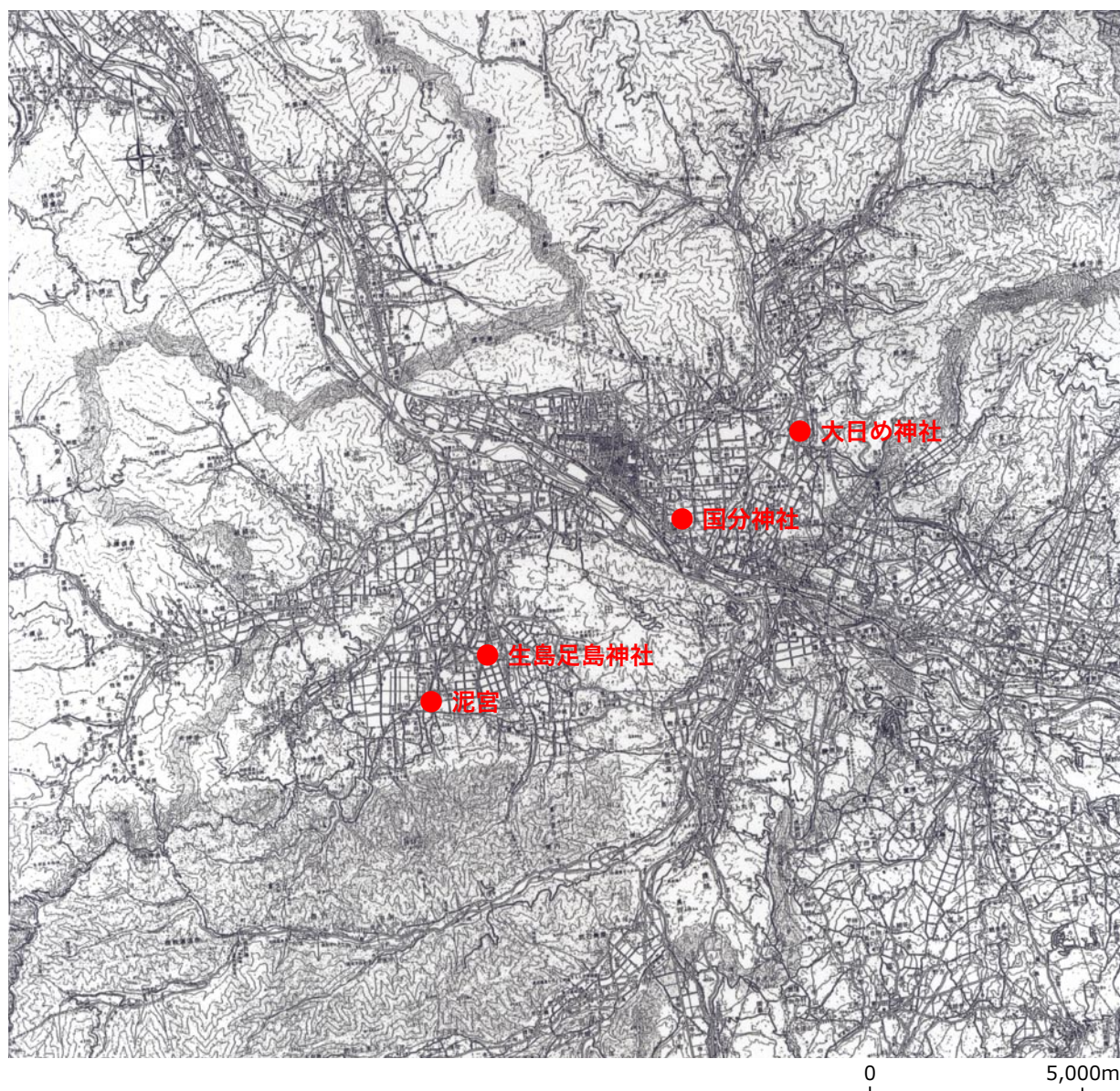
## 2 レイラインに関する現地調査

夏至の日の出と冬至の日の入りを結んだ直線上、またはその周辺に所在する神社等では、日の出や日の入りと文化財等が一带となった美しい景観が人々を魅了することがある。上田市の日本遺産のストーリーを構成する文化財として、こうした太陽とのコラボレーション景観を作り出すものには、信濃国分寺跡（国分神社）、生島足島神社、泥宮を挙げてあるが、日本遺産認定後に、その他の文化財でも同様の景観等を見ることができるとの市民からの情報提供等をいただいたことから、冬至（令和2年12月21日（月））前後の日に認定エリア及び周辺地域で現地調査等を行い、下記の調査結果を得た。

### (1) 大日め神社〈上田市 大日ノ木〉未指定

名称は「オオヒルメ」神社で、「オオヒルメ」は天照大神と同一神とされる。写真のとおり、社殿は伊勢神宮と同じく神明造りであり、祭神を同じくする伊勢神宮との関連がうかがえよう。

今回のストーリーの構成文化財とはしていないが、レイライン上に位置する神社（相原 1983、益子 2020）である。相原氏の報文によると、冬至の落陽が鳥居の中央に落ちるといふ。現地調査を令和2



第5図 調査対象とした神社

年12月18日（金）及び19日（土）、21日（月）に行ったところ、日の入りの太陽が境内南西側にある鳥居に落ちてくることを確認した。参道の並木が太陽を遮ってしまうのではないかと考えたが、む写真をご覧くださいもお分かりのとおり、神秘的な光景を作り出している。

大日め神社は社殿、社叢は文化財（有形文化財・天然記念物）には指定していないが、この太陽と鳥居がつくる景観を最優先して参道の木を伐採してしまうことは、文化財保護の観点から絶対に避けるべきである。新たな構成文化財とできる可能性はあるが、殿城地域の文化財を面として活用するために、大日め神社以外の文化財にも、ストーリーの魅力を高めるための要素が必要である。しかし、現状では把握できている要素は少なく、さらに補充調査等を行い、文化財の拾い上げ等の作業が必要となろう。

また、周遊のしやすさを考慮した認定エリアの設定も必要であるため、構成文化財を追加して殿城地区までエリアの拡大等を検討する場合には、以上の点を考慮して進めていく必要がある。



第6図 大日め神社の位置



第7図 大日め神社 全景（南西から）

※ケヤキ等からなる社叢は「上田市指定保存樹林」（昭和50年3月1日指定第7号）となっている。



第 8 図 大日め神社・拝殿と本殿（南西から）



第 9 図 石鳥居



第 10 図 鳥居額

※大日め神社の「め」は矢印が示す字です

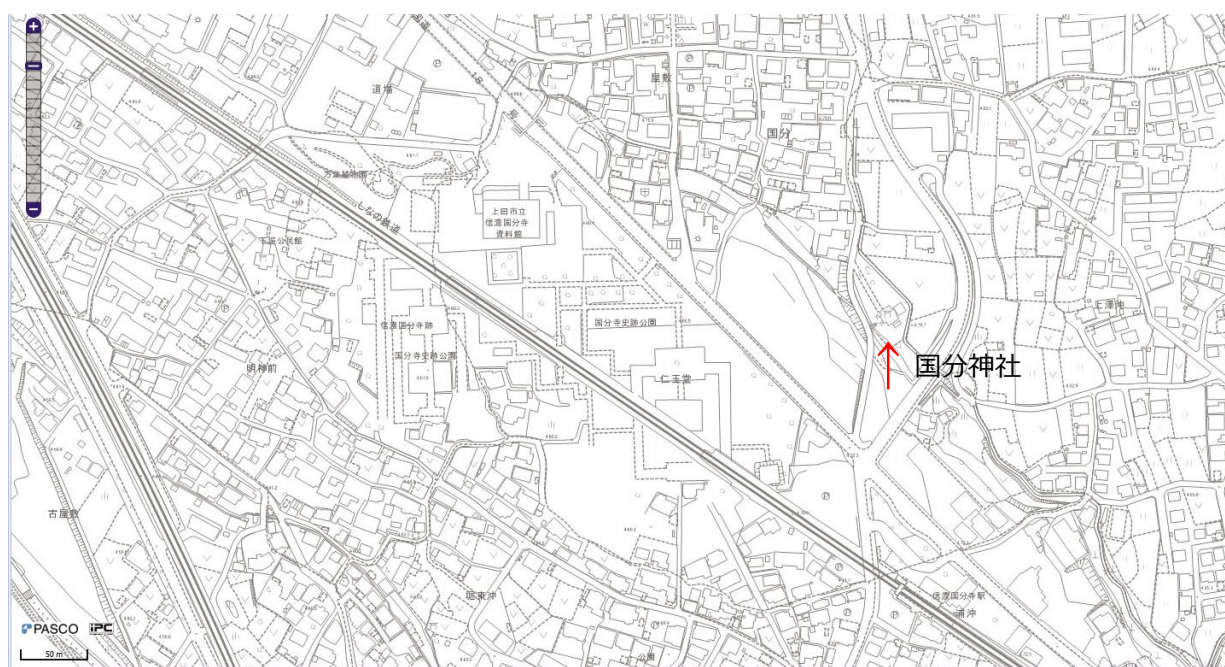


第 11 図 鳥居と冬至の落陽（令和 2 年 12 月 18 日 16 時 21 分撮影）

## (2) 国分神社（八幡社）〈上田市 国分〉未指定

構成文化財とした史跡信濃国分寺跡の北東側に隣接し、その鬼門除けとして鎮座するという。レイライン上に位置する神社（相原 1983、益子 2020）で、相原氏の報文では、冬至の落陽が鳥居の中央に落ち、それがちょうど信濃国分寺の金堂跡と重なるとのことである。現地調査を令和2年12月20日（日）及び21日（月）に行ったところ、日の入りの太陽が境内南側にある鳥居に落ちてくることを確認した。

境内が高台にあるため、拝殿と鳥居との距離が短く、鳥居の中央に太陽が落ちてくる光景を撮影することは、少し難しい環境である。また、落陽が小牧山に遮られてしまうため、鳥居に太陽が落ちてくるのは、午後3時20分頃になることから、日の入りの太陽の色味（夕焼けの太陽ではなく、白っぽい太陽が鳥居に落ちてくる）を感じられないことが残念であるが、史跡信濃国分寺跡がレイライン上にあることを体感できる場所として効果的な活用が期待できよう。



第 12 図 国分神社の位置



第 13 図 国分神社 遠景（南西から）



第 14 図 国分神社・拝殿と本殿（西から）



第 15 図 鳥居（額「国分神社」）



第 16 図 石鳥居（額「八幡社」）



第 17 図 鳥居と冬至の落陽（令和 2 年 12 月 20 日 15 時 20 分撮影）

### (3) 生島足島神社〈上田市 下之郷〉 本殿内殿（長野県宝）・摂社諏訪社（市指定建造物）

平安初期の「延喜式」に載る古社で、生島大神と足島大神を祭神とし、御神体は「大地」である。寛政11（1799）年に生島足島神社と社名を改めており、中世以降には「下之郷大明神」「諏訪法性大明神」などと呼ばれ、武田信玄や真田氏、歴代上田藩主の手厚い加護を受けた。生島大神と足島大神を祀る神社は全国的にも珍しく、近畿地方を中心に数社しかなく、東日本では皇居内宮中三殿とこのみである。

レイライン上に位置する神社（相原 1983、益子 2020）で、太陽が夏至には鳥居の真ん中から上がり、冬至には鳥居の真ん中に沈むよう、東西の鳥居が太陽の至点と一致するように配置されており、この二つの鳥居を結ぶ参道はレイラインと一致し、まさに「太陽」と「大地」を結ぶ神社である。

現地調査を令和2年12月18日（金）及び20日（日）、21日（月）に行ったところ、日の入りの太陽が境内西側にある鳥居に落ちてくることを再確認した。また、21日（月）に神社の北東●m程離れた「お旅所」付近にある大鳥居の真ん中にも太陽が落ちてくることを確認した。「お旅所」とは御柱祭の柱材の切り出しの折に、丸太引きの休憩場所とされるところであり、これもレイライン上に位置する（相原 2020）。

なお、日本遺産認定直後のことだったが、夏至の令和2年6月21日（日）に、この大鳥居と生島足島神社境内東側の鳥居で日の出を確認したところ、太陽が鳥居の真ん中を昇っていくことを確認した。梅雨のせいもあり、連日の曇り空で日の出を確認することが難しかったが、写真のような景色を堪能することができた

境内の西鳥居と大鳥居は、冬至の落陽を観察する場所としては最適な場所であり、上田市の日本遺産を象徴する景色として活用することが可能である。



第 18 図 生島足島神社の位置



第 19 図 生島足島神社 東大鳥居・御旅所 の位置



第 20 図 本殿（北から）



第 21 図 摂社 諏訪社（南から）



第 22 図 生島足島神社本殿 全景（北東から）



第 23 図 生島足島神社 西鳥居



第 24 図 冬至の落陽（西鳥居）（令和元年 12 月 20 日 16 時 04 分撮影）



第 25 図 生島足島神社 東鳥居



第 26 図 夏至の日の出（東鳥居）（令和 2 年 6 月 21 日 5 時 26 分撮影）



第 27 図 生島足島神社 東大鳥居（北から）



第 28 図 東大鳥居の冬至の落陽（令和 2 年 12 月 21 日 16 時 07 分撮影）



第 29 図 夏至の日の出（東大鳥居）（令和 2 年 6 月 21 日 5 時 26 分 撮影：岡田光司氏）

（補足）生島足島神社 御旅所

生島足島神社本殿の北東に位置し、石祠は「太陽の線」上に位置する（相原 2020）とされる。御柱祭の木材を切り出す山に祀られており、諏訪大社との関わりから、鳥居は諏訪の方向を意識していると考えられ、冬至の太陽とのコラボレーションはここでは見ることはできないと推定される。今回の調査では未確認としてしまったため、来年度の調査でしっかり確認したい。



第 30 図 生島足島神社 御旅所（南から）



第 31 図 拝殿（西から）



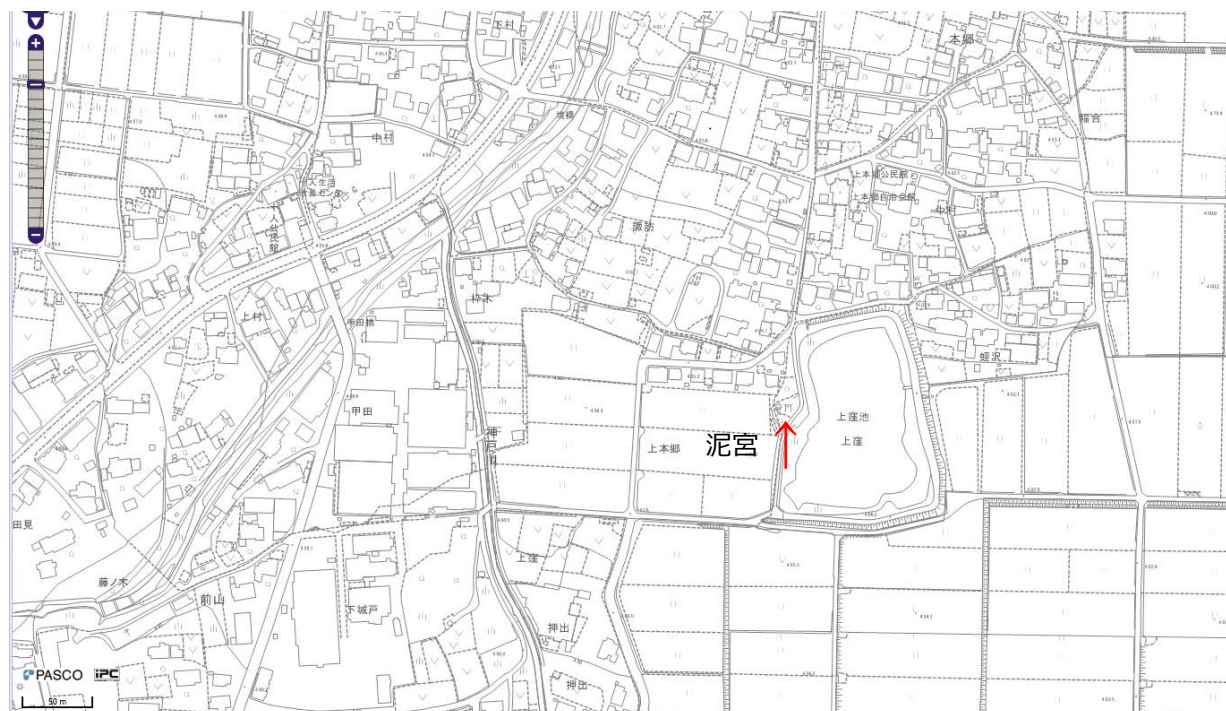
第 32 図 石祠（北西から）

#### (4) 泥宮〈上田市 上本郷〉未指定

泥宮は字の如く「泥」を御神体とし、生島足島神社が創建された時に、遺霊をここに残したともいう。「泥宮」という呼称は寛政2（1790）年以降のものとされ、それまでは「諏訪大明神」であった。かつては生島足島神社の西鳥居とまっすぐな道で繋がっていたともいい、御神体を「大地」、「泥」とするこのふたつの神社は、農耕との関連で信仰されてきたことがうかがえ、相原先生が指摘されたように「太陽の線」と農耕信仰には深い関係がある可能性もあろう。

レイライン上に位置する神社（相原 1983、益子 2020）で、太陽が夏至には鳥居の真ん中から上がり、冬至には鳥居の真ん中に沈むよう、鳥居が太陽の至点と一致するように配置されている。現地調査は令和2年12月22日（火）に行った。その際、日の入りの太陽が境内東側にある鳥居に落ちてくることを確認した。太陽が鳥居の真ん中に落ちてくると、最終的には社殿が遮って太陽が見えないだろうと予想していたが、写真のように太陽が社殿を包み込むように見え、女神岳に落ちていく太陽が鳥居の中で輝く光景を見ることができた。夏至の日の出は来年度の調査で確認する予定である。

泥宮はストーリーの構成文化財としているが、令和2年の冬至とその前後の日ほとんど人が集まっていなかった。駐車場の課題等はあるものの、今後の積極的な活用を検討すべき神社であろう。



第 33 図 泥宮の位置



第 34 図 上窪池と泥宮の遠景



第 35 図 夏至の日の出（矢幡正夫氏提供）



第 36 図 泥宮・拝殿と本殿（東南から）



第 37 図 鳥居と鳥居から見た夏至の日の出の方向（北東・烏帽子岳方面）



第 38 図 鳥居と冬至の落陽（令和 2 年 12 月 22 日 16 時 03 分撮影）

### 3 丸子温泉郷エリア（西内地区・平井）の補充調査

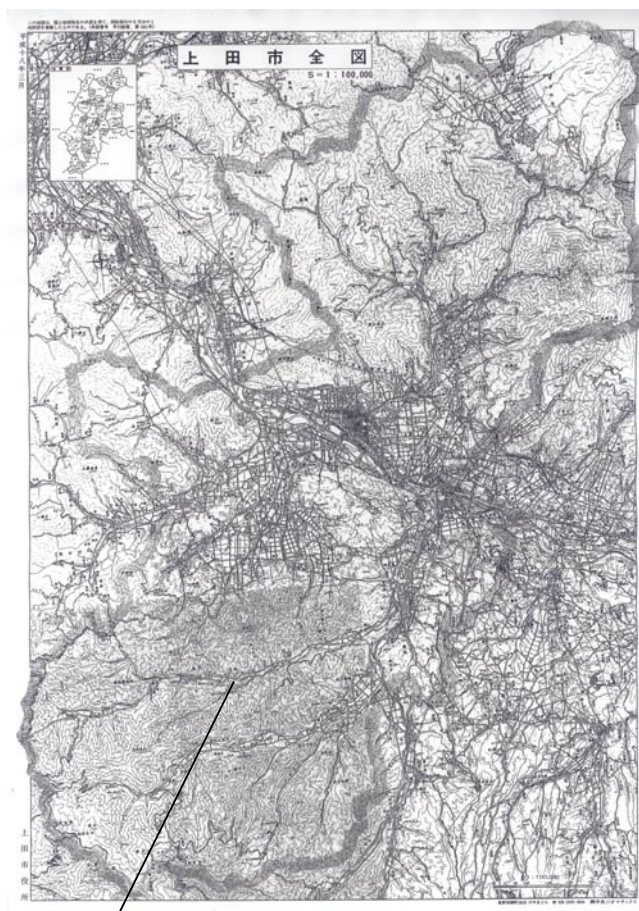
独鈷山の南山麓に位置する西内地区には、丸子温泉郷（鹿教湯温泉・大塩温泉・霊泉寺温泉）と呼ぶ温泉地があり、かねてから湯治客が多かったことから、ヘルスツーリズムに取り組んできた経過がある。今回の日本遺産申請に当たって、こうした従来からの取り組みを観光施策として活用すべく、重要文化財・法住寺虚空蔵堂を構成文化財とし、丸子温泉郷をストーリーのエリアに組み込んだ。

しかし、上田市日本遺産専門部会の観光振興部会、特に鹿教湯温泉の関係者から、集客に繋がるよう、温泉との関わりが強い「構成文化財の追加」を検討して欲しいとの要望が寄せられた。ストーリー作成作業の中で、必ずしも十分な調査が実施できなかった経過もあり、まず、丸子温泉郷エリアのうち「西内地区」において、下記の調査を実施し、構成文化財候補物件の抽出に必要な現地調査を実施したものである。

- (1) 龍に関わる文化財、伝説等の所在調査
- (2) 雨乞いのまつりの所在調査
- (3) 太陽信仰に関わる文化財、伝説等の所在調査

調査は「西内の歴史を学び伝える会」（会長：池内宣訓）の協力を得て、現地調査及び聞き取り調査、文献調査等を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、当初予定していた西内地区全域及び東内地区の調査を実施せず、来年度以降の実施を計画した。



第 39 図 令和 2 年度補充調査対象エリア 丸子温泉郷・西内地区平井

## (1) 龍に関わる文化財、伝説等の所在調査

### ア 小泉小太郎伝説

「西内の歴史を学び伝える会」の会長・池内宣訓氏（昭和 15 年生まれ 81 歳）から、「小泉小太郎の話は、子どもの時に祖母から聞いたことがある」との情報を得た。池内氏は西内でお生まれになり、現在も西内で生活されている方である。お祖母様は長和町から嫁いでこられたそうである。

西内地区は松本市と接している。小泉小太郎伝説は塩田平では母親が「大蛇」であるが、松筑地区では母親が「龍」となる。松谷みよ子氏が「竜の子太郎」のモチーフとしてこの伝説を採用されたそうだが、後年、塩田平と松筑地区の両方を取材されたことを松谷氏はお話になっている。

今回のストーリーでは、「龍」は雨を降らせる水の神として位置づけ、「龍」を畏敬の対象とし、有益な存在として捉えている。しかし、松筑地区では「龍」は時に人々に害を与える存在として伝説等に登場することがあり、この点が塩田平と異なっている。

西内地区での「小泉小太郎」伝説のあり方について情報が得られたことは貴重であり、イで紹介する「不明門の伝説」と併せて、西内地区の「龍」の捉え方の一端を示していると言えよう。

#### 小泉小太郎

前山村鉄城山の頂に一寺がありました。この寺の住持のもとに毎夜美しい女が通ってきました。真夜中に、いずこから来ていずこへ去るとも知れません。住僧は長らく暮らすうちに、いぶかしく思うようになりました。そこである夜、女の着物の裾に針をつけ糸を繰り出してやりました。夜が明けて見ると、糸は戸の節孔からぬけて山の沢を下り産川の上流にある「鞍淵」の岩窟の中まで引いていました。

見ると大蛇がとぐろをまいて赤児を産もうと苦しんでいる様子に、住僧は驚いて逃げ帰ってしまいました。このことによって、毎夜通ってくる女は鞍淵の主で大蛇であることがわかりました。

大蛇はさされた針の黒がねの毒に弱り、そのうえ、己の姿も覚えられたのを恥かしく思い、腹に宿した児を「鞍岩」の上に産みおいて、ここで死んでしまいました。故に、この川の名を「産川」と言うのです。その後大雨が降って洪水が漲って山や沢をひたし、大蛇の遺骨は産川に流れ出し「蛇骨石」となって下流に散らばっています。今でも産川を歩くと拾うことができます。

産まれた児は二里（約八キロメートル）余り押し流されて小泉村のある老婆に救われました。これが「小泉の小太郎」です。小太郎がやがて成長し十四、五歳のころであったか、老婆が、「わが家は、さほど豊かというでもないが年ごろの養育も一方ではない。おまえも今は一人前の大人になった。婆のために少しは手助けをしろや。」と言いました。

小太郎は生まれつき小兵であったけれども、体は逞しくて毎日大食して何一つ仕事らしい仕事をしたことがない。そこで小太郎は婆を気の毒に思い、ある日、小泉山へ一日出かけて行って薪取りをしました。そして小泉山にある限りの萩の木を根こぎにし尽し、力をこめて束ね、たった二抱えばかりの束にして夕方家へ帰って来ました。そして、

「この束は結び縄を解かないで一本ずつ抜きつつ焚きな、山じゅうの萩の束だからな。」と言いました。老婆は、「よしよし。」と答えましたが、腹の中で「一日仕事に、どうして山じゅうの萩やなんか採れるもんか、こんな小束にまるかるものか。」と小馬鹿にして小太郎の留守に結び縄を解きました。

すると萩はたちまち、はげくりかえって家いっぱいになり煙出しをはねあげてしまいました。老婆は萩に押しつぶされて死んでしまいました。それから小泉山には萩が一本も生えていなくなりました。

また小太郎の子孫は長くこの地に住んでいますが、横腹に蛇の鱗のあとがあるといわれています。

（出典：『郷土の民俗 民話』上田市立博物館 1983）

## イ 不明門（あかずの門）の伝説

霊泉寺温泉の霊泉寺境内に所在する「不開門」と龍にまつわる伝説である。ここに登場する龍は、「雨を降らせる水神」という役割を超え、「大雨を降らし、暴風を巻き起こし、田畑を荒らす」等、人々に害を及ぼす対象として描かれている。この点は、松筑地区の「龍」の扱い方と共通しており、松本市と接する西内地区の地理的環境が大きく影響している可能性がある。



第 40 図 霊泉寺の不明門

### 不開門（あかずの門）

※「不開門」は出典の表記に拠りました。

むかし、むかし、信濃の山奥に、小さな温泉がありました。

その温泉の村に、霊泉寺というお寺があり、仏国禅師というえらいお坊さんが住んでいました。ある日のこと、となりの国、中国から、慶書記という絵かきがやって来ました。慶書記は、お坊さんにいろいろなことを教えてもらいながら、絵をかいていました。その中に、とっても大きな竜の絵がありました。その竜は何枚もの板をつなぎ合わせてかかれていました。

そして、できあがった絵をお寺の本堂にならべて置くと、竜の絵からぬけ出して、大雨を降らせたり、大風を吹かせたりして、田畑を荒らしました。慶書記があまりにも一生懸命に絵をかいたので、魂が竜に乗り移っていたのです。

竜があまり暴れまわったので、村の人たちは、とっても困りました。

そこで、お坊さんは、竜の胸の板を一枚はずしてしまい、門を固くとざして、竜を閉じ込めてしまいました。そして、お盆の十六日と、お正月の十六日だけ開けることにしたのです。

それからは、竜も暴れなくなり、村の人たちも安心して暮らすことができるようになりました。

ところが、それから何年もたって、お寺が火事になりました。その時、胸の板をはずされて逃げるこのできない竜の、悲しそうな鳴き声が聞こえてきたのです。

すると、西の空から真黒な雲が現れ、大きなけやきの上まで来ると、ぴたりと止まりました。そして、竜はその雲に乗り、天に上って行きました。

この火事の時にただ一つ焼けなかった門があつて、それを「あかずの門」と、呼ぶようになったということです。

（出典：『ふるさとの民話と伝説』『丸子町誌』民俗編 丸子町（1992）に掲載から引用）

## (2) 雨乞いのまつりの所在調査

西内歴史研究会からの聞き取りでは、雨乞いの風習はあまり聞かないとのことであった。「内村川があるから、水には困らない」という。確かに、山塊に挟まれた谷を内村川が流れており、塩田平の風景とは異なる。ただし、一箇所だけ雨乞いのまつりが行われているところがあるという。それは、鹿教湯温泉の真南にある渋田見山の頂上付近に「万年九郎沼大明神」の奥社があり、水の神様が祭られているとのことである。

この「万年九郎沼大明神」については、『丸子町民俗行事集―祭り編』（民俗行事集作成委員会 1981）



第 41 図 鹿教湯温泉から見た渋田見山（北側から）

や『丸子町誌』民俗編（丸子町 1992）に記載がある。

注目されるのは、「雨降らせ給えな、万年九郎沼大明神」と唱えながら石の祠を水中に投げ込んで棒でたたいた」という行為であろう。万年九郎沼大明神は「マネクロ」（丸子町 1992）とも呼ばれていたようで、この祠を粗末に扱う振る舞いは、お地蔵様を川に投げ込むことに通ずるものだろう。また、大火（千駄焚き）に関しては、「昭和一桁代のころ、渋田見山の峯で枯木や草を刈り集めて焚き、「雨降らせ給え」と大声で祈願をした（丸子町 1992）」という。

深い山中にあるため、里宮でのまつりを行うようになったのだと聞き取りの際にうかがっている。俄かに信じ難いが、この沼には「しじみ」が生息していると皆が言う。今年度の調査では降雪のため、現地へ赴くことが出来なかった。来年度の調査で現地の確認を行いたい。

## 万年九郎沼大明神

## 西内地区 西区

鹿教湯の真南にあたる渋田見山の頂上付近に、万年九郎様の奥社がある。水の神様として石のほこらが祀られている。渋田見沢の源で二坪位の沼の様になっていて、一分間も手を入れていられぬ位冷たい水である。

昔から干ばつの時は部落総出でこのほこらに参拝祈願して、大火をたき口々に大声で古老の先達で「雨降らせ給えな、万年九郎沼大明神」と唱え石のほこらを水中に投げこんで棒でたたいた。神様が怒って雨を降らせてくれると信じての行動だった。今つつじ公園奥に里宮を造り毎年六月一日水祭りとして若衆がのぼりを立て一杯やり祭りとしている。

鹿教湯水道の水源地でもある。標高一五〇〇米の奥宮の沼には米つぶ位の真白いしじみがいる。渡り鳥でも運んで来たものと思う。最近では登る人もなく、雨乞をする様な干ばつも無いが万年九郎様にすが  
る日も又あるかもしれない。

（鹿教湯 斉藤 守）

（『丸子町民俗行事集 - 祭り編』民俗行事集作成委員会 1981）

(3) 太陽信仰に関わる文化財、伝説等の所在調査

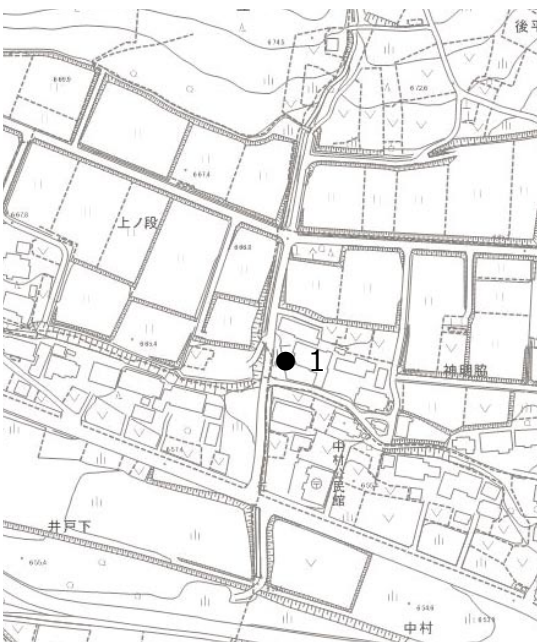
ア) 天照大神を祀る神社等の所在調査

太陽を象徴する「天照大神」を祀る神社の分布を把握し、太陽信仰との関連を検証した。神明脇に所在する石祠 1 件を確認した。

1. 神明脇

1 石祠

(カード番号) 89  
(寸法) 高さ 57 (44)  
・幅 22・厚 21 cm  
(造立年) 不明  
(文字) なし



第 14 図 大日如乎)

第 42 図 大日如来分布図 (後平)

1 天照大神を祀る社 「西内区石造物台帳」(上) 石造文化財調査カード (写)

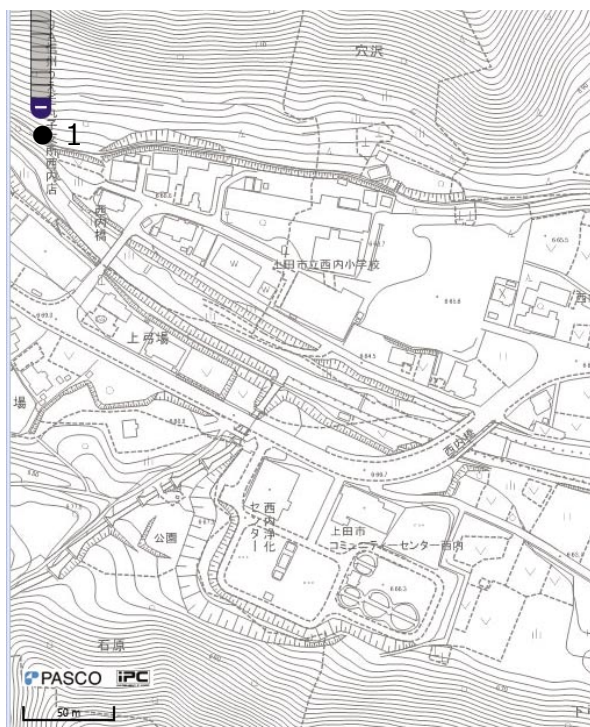
| 昭和 年 月 日  |                                                                                                                                  | 記録者   |     |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|
| 所在地       | 平井区 神明脇                                                                                                                          | 種別    | 石 殿 |
| 品名        | 衾津の天照大神                                                                                                                          | 現状    |     |
| 寸法        | 高さ 57 (44) 幅 22 厚 21                                                                                                             | 造立年   | ( ) |
| 銘文 (縦書)   | 由来・特色・その他                                                                                                                        |       |     |
| 裏 左 横 右 表 | 衾津の天照大神を祭つてある所<br>かたていひて 神明脇に<br>御がつき、あ(ん)めい(めい)<br>御まつて、天照大神になつ<br>てまつらうい。(中村の人)<br>元禄の徳政の人道(は神明<br>脇と云う)外毎年八月八夜に祭<br>りを行なつてゐる。 |       |     |
| 写真 (略図)   |                                                                                                                                  | 所在地略図 |     |
|           |                                                                                                                                  |       |     |

イ) 大日如来を安置する寺院・堂庵等の所在調査

太陽を象徴する「大日如来」を安置する堂庵等の分布状況を把握しようと試みたが、該当する事例は確認できなかった。

## ウ) 石造大日如来の分布

石造大日如来の分布を把握し、太陽信仰との関連を検証した。今回の調査で、16 件の所在調査を行い、14 件の所在を確認した。



第 43 図 大日如来分布図 (日南田)



第 44 図 大日如来分布図 (後平)

### 1. 日南田

#### 1 大日如来 (文字塔)

(カード番号) 109

(寸法) 高さ 138 (99)・幅 36・厚 37 cm

(造立年) 文政 4 年 (1821)

(文字) 大日如来 / 文政四年瀧澤新左衛門



第 45 図 大日如来 (文字塔)

### 2. 後平

#### 2 大日如来 (文字塔)

(カード番号) 90

(寸法) 高さ 66 (55)・幅 31・厚 7 cm

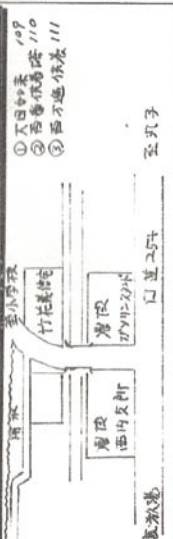
(造立年) 不明

(文字) 大日女雷 / □□□□日



第 46 図 大日如来 (文字塔)

1 大日如来（文字塔）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| 所在地                              |            | 種別                        |      | 品名                                                                                  |             | 現状                                                                                   |  |
|----------------------------------|------------|---------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 平井区 日南田                          |            | 石仏                        |      | 大日如来                                                                                |             |                                                                                      |  |
| 寸法                               | 高 138 (99) | 幅 36                      | 厚 37 | 造立年                                                                                 | 文政4年 (1821) | 塔形                                                                                   |  |
| 銘文（縦書）                           |            | 由来・特色・その他                 |      | 写真（略図）                                                                              |             | 所在地略図                                                                                |  |
| 裏 左 横 右 表<br>大日如来<br>文政四年 龍澤新左衛門 |            | 昭和63年3月用水工事の爲並て<br>裏えられた。 |      |  |             |  |  |

2 大日如来（文字塔）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

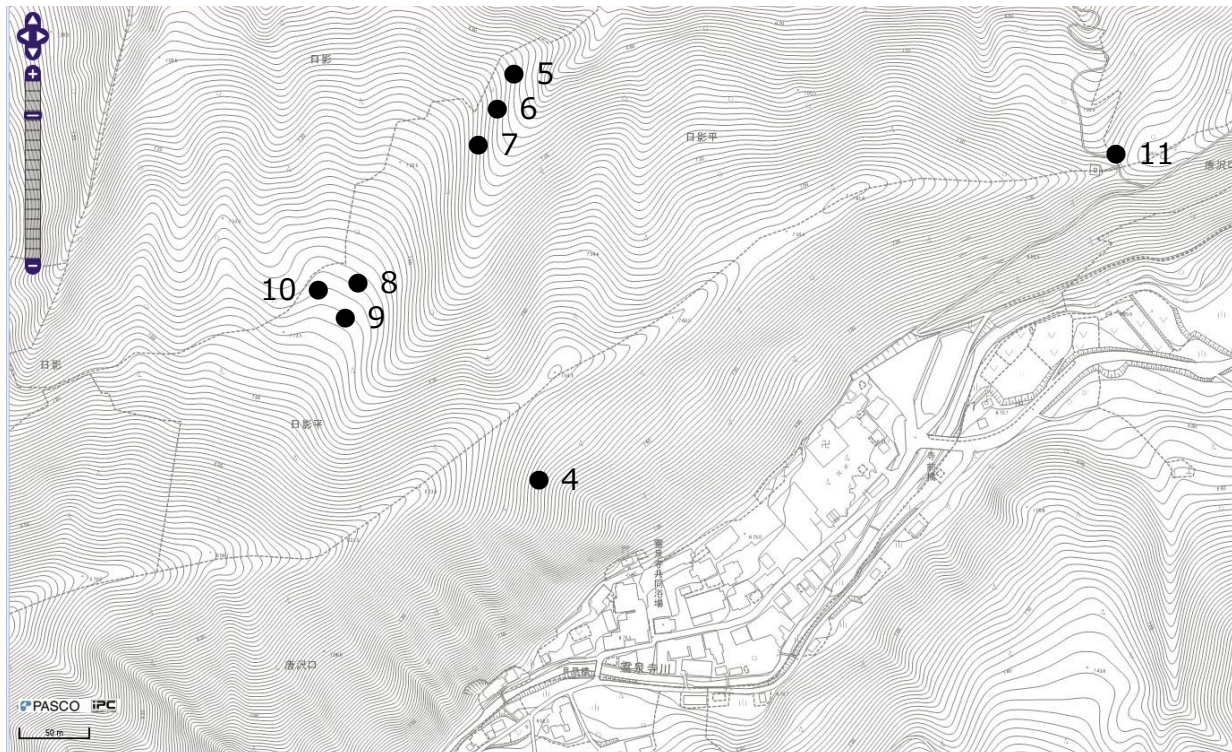
| 所在地                           |              | 種別                            |     | 品名                                                                                   |  | 現状                                                                                    |  |
|-------------------------------|--------------|-------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 平井区 後平                        |              | 石仏                            |     | 大日如来                                                                                 |  |                                                                                       |  |
| 寸法                            | 高 大日 66 (55) | 幅 31                          | 厚 7 | 造立年                                                                                  |  | 塔形                                                                                    |  |
| 銘文（縦書）                        |              | 由来・特色・その他                     |     | 写真（略図）                                                                               |  | 所在地略図                                                                                 |  |
| 裏 左 横 右 表<br>大日女雷<br>□□□□□□□□ |              | 89~94区.91以外は後平に<br>えて立てられている。 |     |  |  |  |  |

(文字) 大日如来

A photograph of a forest floor. In the center, a log is covered in green moss. The ground is covered with a thick layer of fallen leaves, mostly brown and dry, and many pine needles. Several thin, bare tree branches are visible in the foreground and background, some crossing the frame. The lighting is soft, suggesting an overcast day.

3 大日如来(文字塔)「西内区石造物台帳」(上) 石造文化財調査カード(写)

-25-



第 48 図 大日如来分布図（唐沢口・日影平・行人塚）

### 3. 唐沢口

4 大日如来（肉彫像）  
 （カード番号） 32  
 （寸法）高さ 71（42.5）・  
 幅 20・厚 12 cm  
 （造立年）天明元年（1781）  
 （文字）天明元年 / 大日如来  
 / 丑十月 / 願主 / 又右エ門  
 ※台座に刻字



第 49 図 大日如来（肉彫像）

### 4. 日影平

5 大日如来（肉彫像）  
 （カード番号） 64  
 （寸法）高さ 54（39）・幅 24・  
 厚 10 cm  
 （造立年）不明  
 （文字）なし



第 50 図 大日如来（肉彫像）

6 大日如来（光背付半肉彫像）  
 （カード番号） 66  
 （寸法）残存高さ 48・幅 30・  
 厚 17 cm  
 （造立年）不明  
 （文字）なし

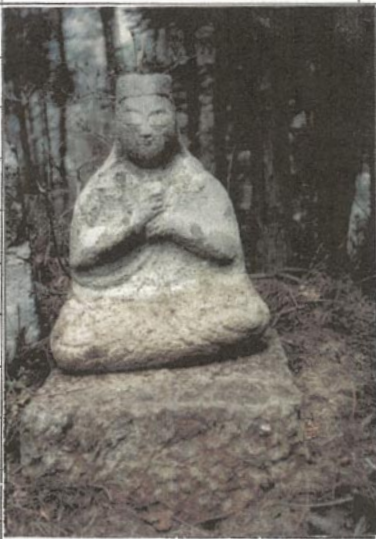


第 51 図 大日如来（半肉彫像）

4 大日如来（肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| 所在地                                          |                             | 種別                                                                                          |                | 品名                                                                                 |    | 現状      |  |
|----------------------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------|----|---------|--|
| 平井区唐沢口                                       |                             | 石仏                                                                                          |                | 大日如来                                                                               |    |         |  |
| 寸法                                           | 高 71 (42.5)<br>幅 20<br>厚 12 | 造立年                                                                                         | 天明元年10月 (1781) |                                                                                    | 塔形 |         |  |
| 銘文（縦書）                                       |                             | 由来・特色・その他                                                                                   |                | 写真（略図）                                                                             |    | 所在地略図   |  |
| 裏 左 横 右 表<br>(台石)<br>願主 大日如来<br>又左門 丑十月 天明元年 |                             | 形風勾碑下り、小坂を隔て<br>た東上方向約20m、小正<br>小屋のトタン屋根が見え、<br>祭りは4月15日であるが、月遅<br>れで、湯茶屋と平澤家で毎<br>年行なっている。 |                |  |    | No.28参照 |  |

5 大日如来（肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| 所在地                                                                                 |                           | 種別                                |     | 品名                                                                                   |    | 現状      |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-----------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|----|---------|--|
| 平井区日影平                                                                              |                           | 石仏                                |     | 大日如来                                                                                 |    |         |  |
| 寸法                                                                                  | 高 54 (39)<br>幅 24<br>厚 10 | 造立年                               | ( ) |                                                                                      | 塔形 |         |  |
| 銘文（縦書）                                                                              |                           | 由来・特色・その他                         |     | 写真（略図）                                                                               |    | 所在地略図   |  |
| 裏 左 横 右 表                                                                           |                           | ひびき 埋まっていた。<br>隣りに天明2年の形が基<br>ある。 |     |  |    | No.67参照 |  |
|  |                           |                                   |     |                                                                                      |    |         |  |

6 大日如来（光背付半肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| No. 66    |        | 石造文化財調査カード |           |     |     | 昭和 年 月 日                                                                           |    | 記録者       |  |
|-----------|--------|------------|-----------|-----|-----|------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------|--|
| 所在地       | 平井区日影平 |            |           | 種別  | 石仏  |                                                                                    | 品名 | 馬頭観音      |  |
| 寸法        | 高 (48) | 幅 30       | 厚 17      | 造立年 | ( ) |                                                                                    | 塔形 |           |  |
| 銘文（縦書）    |        |            | 由来・特色・その他 |     |     | 写真（略図）                                                                             |    | 所在地略図     |  |
| 裏 左 横 右 表 |        |            |           |     |     |  |    | No. 67 参照 |  |

5. 日影平（行人塚）

7 大日如来（肉彫像）  
（カード番号） 67  
（寸法） 高さ 46・幅 28・厚 16 cm  
※台座を失ってしまった  
（造立年） 宝暦 4 年（1754）  
（文字） 寶曆四甲天八月



第 52 図 大日如来（肉彫像）

8 大日如来（光背付半肉彫像）  
（カード番号） 68  
（寸法） 高さ 65（59）・幅 29・  
厚 10 cm  
（造立年） 不明  
（文字） 龍學院



第 53 図 大日如来（半肉彫像）

9 大日如来（肉彫像）  
 (カード番号) 70  
 (寸法) 高さ 44・幅 18・  
       厚 12 cm  
 (造立年) 寛保元年（1741）  
 (文字) 勸法元辛酉天ノ酉ノ三  
 月十二日



第 54 図 大日如来（肉彫像）

10 大日如来（肉彫像）  
 (カード番号) 71  
 (寸法) 高さ 66（59）・幅 24・  
       厚 14 cm  
 (造立年) 不明  
 (文字) なし



第 55 図 大日如来（肉彫像）

7 大日如来（肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| No. 67 石造文化財調査カード                   |          |           |      | 昭和 年 月 日 記録者                                                                         |               |                                                                                                                                           |    |  |
|-------------------------------------|----------|-----------|------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--|
| 所在地                                 | 平井区日影平   |           | 種別   | 石 仏                                                                                  | 品名            | 大日如来                                                                                                                                      | 現状 |  |
| 寸法                                  | 高 61(46) | 幅 28      | 厚 16 | 造立年                                                                                  | 宝暦4.7. (1754) | 塔形                                                                                                                                        |    |  |
| 銘文（縦書）                              |          | 由来・特色・その他 |      | 写真（略図）                                                                               |               | 所在地略図                                                                                                                                     |    |  |
| 裏<br>左<br>横<br>右<br>表<br>(裏) 寶暦四年八月 |          |           |      |  |               | No. 67 参照<br>(日影平)<br>44-47 の辺は不<br>明な状態に<br>あり、<br> |    |  |

8 大日如来（光背付半肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| No. 68                              |                          | 石造文化財調査カード                                                                                                                                               |     |        |      | 昭和 年 月 日 記録者 |  |
|-------------------------------------|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|--------|------|--------------|--|
| 所在地                                 | 平井区日影平<br>(原ノ久保)         | 種別                                                                                                                                                       | 石仏  | 品名     | 大日如来 | 現状           |  |
| 寸法                                  | 高 65(59)<br>幅 29<br>厚 10 | 建立年                                                                                                                                                      | ( ) |        | 塔形   |              |  |
| 銘文（縦書）                              |                          | 由来・特色・その他                                                                                                                                                |     | 写真（略図） |      | 所在地略図        |  |
| 裏 左 横 右 表<br><br>龍學院<br><br>配置図<br> |                          | この付近に4つの石仏があり<br>土の盛り出した塚（行人塚と<br>呼ばれている）を取りまいた<br>形に並んでいる。<br>後の方は二三段 平らになっ<br>ていて、植林されているが畑<br>であると思われる。その昔は<br>建物があったかもしれない。<br>一名（原ノ久保）とも呼ばれて<br>いる。 |     |        |      |              |  |

9 大日如来（光背付半肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| No. 70                              |                       | 石造文化財調査カード |                  |        |      | 昭和 年 月 日 記録者 |  |
|-------------------------------------|-----------------------|------------|------------------|--------|------|--------------|--|
| 所在地                                 | 平井区日影平                | 種別         | 石仏               | 品名     | 大日如来 | 現状           |  |
| 寸法                                  | 高 124<br>幅 10<br>厚 12 | 建立年        | 寛永元年2月12日 (1741) |        | 塔形   |              |  |
| 銘文（縦書）                              |                       | 由来・特色・その他  |                  | 写真（略図） |      | 所在地略図        |  |
| 裏 左 横 右 表<br><br>裏<br>寛永元年<br>二月十二日 |                       |            |                  |        |      | No. 68参照     |  |

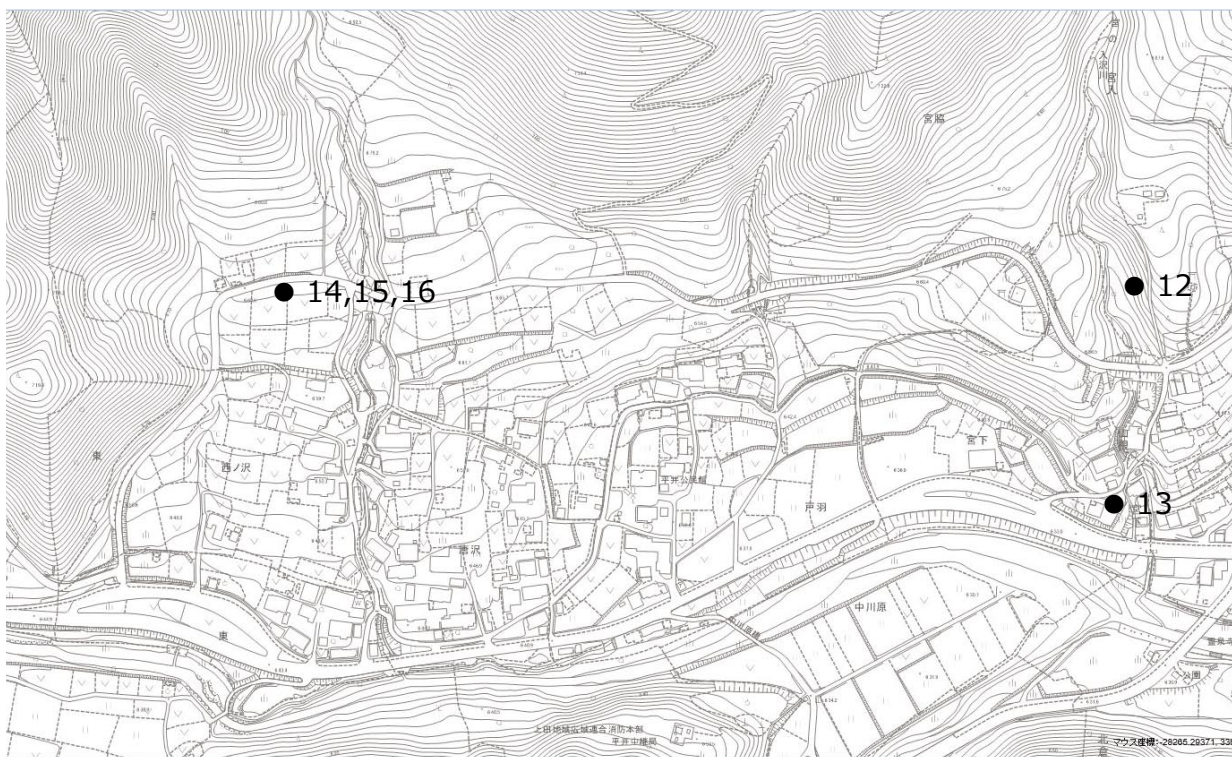
10 大日如来（肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| No. 78                                                                             |           | 石造文化財調査カード |           |     |     | 昭和 年 月 日                                                                            |      | 記録者       |    |
|------------------------------------------------------------------------------------|-----------|------------|-----------|-----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------|----|
| 所在地                                                                                | 平井区 日影平   |            | 種別        | 石 仏 |     | 品名                                                                                  | 大日如来 |           | 現状 |
| 寸法                                                                                 | 高 66 (57) | 幅 24       | 厚 14      | 造立年 | ( ) |                                                                                     | 塔形   |           |    |
| 銘文（縦書）                                                                             |           |            | 由来・特色・その他 |     |     | 写真（略図）                                                                              |      | 所在地略図     |    |
|  |           |            |           |     |     |  |      | No. 68 参照 |    |

11 大日如来（肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| No. 55    |           | 石造文化財調査カード |                                             |     |     | 昭和 年 月 日                                                                             |      | 記録者       |    |
|-----------|-----------|------------|---------------------------------------------|-----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------|----|
| 所在地       | 平井区 城下    |            | 種別                                          | 石 仏 |     | 品名                                                                                   | 大日如来 |           | 現状 |
| 寸法        | 高 61 (50) | 幅 18       | 厚 9                                         | 造立年 | ( ) |                                                                                      | 塔形   |           |    |
| 銘文（縦書）    |           |            | 由来・特色・その他                                   |     |     | 写真（略図）                                                                               |      | 所在地略図     |    |
| 裏 左 横 右 表 |           |            | 音美加、音美保、音美保人等の<br>三行の至り、毎年2月〜3月頃<br>下祭りに行く。 |     |     |  |      | No. 53 参照 |    |

※今回の現地調査では所在を確認できなかった。聞き取りによれば、10年ほど前には既に無かったということである。



第 56 図 大日如来分布図（宮の入・宮脇・西の沢）

## 6. 宮の入（宮の入沢）

12 大日如来（文字塔）  
 (カード番号) 10  
 (寸法) 高さ 89・幅 35・厚 28 cm  
 (造立年) 不明  
 (文字) 大日如来



第 57 図 大日如来（文字塔）

## 7. 宮脇

13 大日如来（肉彫像）  
 (カード番号) 9  
 (寸法) 高さ 50 (34)・幅 22・厚 13 cm  
 (造立年) 不明  
 (文字) なし



第 58 図 大日如来（肉彫像）

12 大日如来（文字塔）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| 所 在 地           |             | 種 別                                                                                                 |       | 品 名                                                                                 |  | 現 状                                                                                 |  |
|-----------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 平井区 宮入<br>(宮入沢) |             | 石 仏                                                                                                 |       | 大日如来                                                                                |  |                                                                                     |  |
| 寸 法             | 高 (87) 幅 35 | 厚 28                                                                                                | 造 立 年 | ( )                                                                                 |  | 塔 形                                                                                 |  |
| 銘 文 (縦書)        |             | 由来・特色・その他                                                                                           |       | 写 真 (略 図)                                                                           |  | 所在地略図                                                                               |  |
| 裏 左 横 右 表       |             | 三王神社西の道路下竹藪の中にある。<br>タテ260、ヨコ245、高126cmの紙岩と呼ばれる岩の上に立っている。昔この付近に紙が住んでいて、よくこの岩の上で遊んでいたから、この岩が紙といふとさう。 |       |  |  |  |  |

13 大日如来（肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| 所 在 地     |                | 種 別                         |       | 品 名                                                                                  |  | 現 状   |  |
|-----------|----------------|-----------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------|--|-------|--|
| 平井区 宮脇    |                | 石 仏                         |       | 大日如来                                                                                 |  |       |  |
| 寸 法       | 高 50 (34) 幅 22 | 厚 13                        | 造 立 年 | ( )                                                                                  |  | 塔 形   |  |
| 銘 文 (縦書)  |                | 由来・特色・その他                   |       | 写 真 (略 図)                                                                            |  | 所在地略図 |  |
| 裏 左 横 右 表 |                | 縦25cm横57cm、高57cmの岩の上に乗っている。 |       |  |  | 7 参照  |  |



第 59 図 大日如来の新たな安置場所

## 8. 西の沢

14 大日如来（肉彫像）  
 （カード番号） 50  
 （寸法）高さ 71（50）・幅 31・  
 厚 8 cm  
 （造立年） 不明  
 （文字） 小林新□□



金剛界智拳印



第 60 図 大日如来（肉彫像）

15 大日如来（肉彫像）  
 （カード番号） 48  
 （寸法）高さ 73（40）・幅 24・  
 厚 13 cm  
 （造立年） 享保 5 年（1720）カ  
 （文字） 享保五庚子年十月 / 小  
 林新右衛門 / 正徳五未年七月七  
 日



金剛界智拳印



第 61 図 大日如来（肉彫像）

16 大日如来（肉彫像）  
 （カード番号） 49  
 （寸法）高さ 77（41）・幅 33・  
 厚 14 cm  
 （造立年）宝暦 14 年（1764）  
 （文字）（背）小林新右衛門  
 （円筒台石の裏）寶暦十四甲  
 申 / □□源□□定め / 正月十□  
 日



第 62 図 大日如来（肉彫像）

14 から 16 の 3 体は、令和 2 年に現在の場所に集められ、お祭りされている。以前の安置場所については、各調査カードを参照されたい。

14 大日如来（肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

50

石造文化財調査カード

昭和 年 月 日

記録者

|                                  |                    |        |           |    |   |        |     |       |    |
|----------------------------------|--------------------|--------|-----------|----|---|--------|-----|-------|----|
| 所在地                              | 平井区 <del>西内区</del> |        | 種別        | 石仏 |   | 品名     |     | 現状    |    |
| 寸法                               | 高                  | 71(50) | 幅         | 31 | 厚 | 14     | 造立年 | ( )   | 塔形 |
| 銘文（縦書）                           |                    |        | 由来・特色・その他 |    |   | 写真（略図） |     | 所在地略図 |    |
| 裏 左 横 右 表<br><br>小林新<br>□□<br>□□ |                    |        |           |    |   |        |     |       |    |

15 大日如来（肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| No. 48                          |           | 石造文化財調査カード                                                                                                                                                                                                                   |      | 昭和 年 月 日                                                                            |                                   | 記録者                                                                                  |  |
|---------------------------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 所在地                             | 平井区 神明前   | 種別                                                                                                                                                                                                                           | 石仏   | 品名                                                                                  | 大日如来                              | 現状                                                                                   |  |
| 寸法                              | 高 73 (40) | 幅 24                                                                                                                                                                                                                         | 厚 13 | 建立年                                                                                 | 正徳5年7月2日 (1715)<br>享保5年10月 (1720) | 塔形                                                                                   |  |
| 銘文（縦書）                          |           | 由来・特色・その他                                                                                                                                                                                                                    |      | 写真（略図）                                                                              |                                   | 所在地略図                                                                                |  |
| 裏 左 横 右 表<br>正徳五年七月二日<br>小林新石衛門 |           | 小林六代神と云ふ事には<br>行われていないらしい。<br>戸羽沢から渡入りの小次郎「板」<br>丁三郎（小次郎）の頂上から北<br>へ500位の尾根にある。<br>石仏の背に銘があるが二つの<br>年号が刻み込まれている。<br>大日如来が多いのは「昔60年に<br>本祀、親王山にすてり禪りに大<br>日如来を建て、親王山奥へかく<br>（たてきり）たからういた。（お花奉<br>神宮の語）の多か？<br>年号の二つあるのもこの関係か？ |      |  |                                   |  |  |

16 大日如来（肉彫像）「西内区石造物台帳」（上） 石造文化財調査カード（写）

| No. 49                           |           | 石造文化財調査カード            |      | 昭和 年 月 日                                                                             |                | 記録者      |  |
|----------------------------------|-----------|-----------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------|--|
| 所在地                              | 平井区 神明前   | 種別                    | 石仏   | 品名                                                                                   | 大日如来           | 現状       |  |
| 寸法                               | 高 77 (41) | 幅 33                  | 厚 14 | 建立年                                                                                  | 宝暦14年1月 (1764) | 塔形       |  |
| 銘文（縦書）                           |           | 由来・特色・その他             |      | 写真（略図）                                                                               |                | 所在地略図    |  |
| 裏 左 横 右 表<br>宝暦十四甲申<br>正月十日<br>定 |           | 銘は円筒の台石の裏に書か<br>れている。 |      |  |                | No. 48参照 |  |

## 第3章 調査の成果と課題

令和2年度の補充調査で明らかになったこと、また、これからの課題を整理して、本書のまとめとしたい。

### 1 レイラインに関する現地調査

今回補充調査を実施した大日め神社、国分神社は構成文化財には含めていないが、生島足島神社や泥宮と併せて、冬至の落陽が鳥居とのコラボレーションにより見せる光景は、大勢の皆さんを引き付けるものとして文化財を活用した観光要素として評価できる。今後は、夏至や冬至といった特別な日における、構成文化財としていない二つの神社の取り扱い、そして、泥宮の活用の方策について、検討する余地がある。

なお、日本遺産認定後、初の冬至となった令和2年12月21日前後には、生島足島神社の境内・西鳥居の真ん中を落ちていく夕日をご覧になろうと、連日お客様で境内が賑わった。日本遺産認定効果を実感するとともに、今後の周知の取組をいっそう進めていきたいと考えている。

### 2 丸子温泉郷・西内地区（平井）の調査

#### (1) 龍に関わる文化財、伝説等の所在調査

塩田平と同じように、「龍」に関わる伝説・民話が存在するかどうかを調査したが、塩田平とは異なる様相を把握することができた。特に、西内地区（鹿教湯温泉）が松本市と接している地形的な環境により、民俗学的に松本方面の影響を少なからず受けていることがうかがえた。霊泉寺の「不明門」に関する龍の伝説は、まさに、この典型であり、「龍と生きるまち」というフレーズを、丸子温泉郷にそのまま投影することは難しいのかもしれない。

来年度以降の調査で、平井周辺の集落の調査も進めていく計画であるが、今回、採集できた「小泉小太郎」伝説については、その分布域等について注目していきたい。

#### (2) 雨乞いのまつりの所在調査

渋田見山の「万年九郎沼大明神」の雨乞いに関する情報を得た。現地調査は残念ながら叶わなかったが、来年度実施する計画とした。(1)と関連するのかもしれないが、丸子温泉郷には雨乞いのまつりは目立たないようであり、塩田平との様相の違いが感じられる。こうした雨乞いのまつりは、「アメフラセタンマイナ」というフレーズをキーワードにして、新たな構成文化財として位置づけていくことができそうであり、今後の調査の成果に期待したい。

#### (3) 太陽信仰に関わる文化財、伝説等の所在調査

この調査では、ア)天照大神を祀る神社等の所在調査、イ)大日如来を安置する寺院・堂庵等の所在調査、ウ)石造大日如来の分布の3つの項目において調査を実施した。特にウ)石造大日如来の分布状況については、丸子町の頃に実施した調査カードに基づき、現地調査を実施したが、所在が確認できない物もあり、保存活用の現状は必ずしも良好ではなかった。こうした状況については、この日本遺産推進事業の中で、「地域住民が身近な文化財の価値と魅力を知って、これを発信していく」という取組の中で、対応していくことが望まれよう。

上記の3つの項目については、今年度、西内地区の平井集落においてのみ実施することになってしまった。新型コロナウイルス感染拡大という前代未聞の状況の中、調査実施に制約があったことも事実である。今年度実施できなかった地域、項目については、来年度の補充調査で計画していきたい。

今回の調査を実施するに当たり、文化庁をはじめ、長野県教育委員会のほか、資料提供、聞き取り調査等で大勢の皆様にあいへんお世話になりました。厚く御礼を申し上げます。今後もよりいっそうの御厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。

〈参考・引用文献〉

- 『丸子町民俗行事集一祭り編』 民俗行事集作成委員会 1981  
「塩田平・古代のロマンを追って 太陽の線」『信濃路』第 42 号 相原文哉 1983  
『郷土の民俗 民話』上田市立博物館 1983  
『丸子町誌』民俗編 丸子町 1992  
「まちづくりニュース」vol.1 長野大学地域連携センター 2016  
「祝 日本遺産認定 太陽の道・龍の郷」民話・伝説散歩その 7  
「週刊うえだ」2020 年（令和 2 年）9 月 26 日（土曜日）第 1624 号 益子輝之 2020  
「信州名匠会研修会資料」令和 2 年 7 月 18 日開催 相原文哉 2020

## 参考資料

令和 2 年度日本遺産認定申請書 から抜粋

様式 3-1 構成文化財一覧表

様式 3-2 構成文化財写真一覧

ストーリーの構成文化財一覧表

| 番号       | ふりがな<br>文化財の名称<br>(※1)                                    | 指定等の状況<br>(※2) | ストーリーの中の位置づけ<br>(※3)                                                                                                                                                                                                                                       | 文化財の所在地<br>(※4) |
|----------|-----------------------------------------------------------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| ■「信州の学海」 |                                                           |                |                                                                                                                                                                                                                                                            |                 |
| 1        | あんらくどはっかくさんじゅうのとう<br>安楽寺八角三重塔                             | 国宝             | <p>中国から伝わった「禅宗様」で造られた、現存する日本唯一の木造八角三重塔で、長野県の「国宝第一号」。かつては「四重塔」とされたが、現在は一番下の屋根は裳階(ひさし)と解釈されている。禅宗寺院であるにも関わらず一層内部に大日如来像が安置されており、太陽信仰との関連をうかがわせる。</p> <p>創建は1290年代とされ、八角形のどっしりとした落ち着きがある塔で、頂上には相輪が青天高くそびえている。屋根の下の華やかな木組みも相まって、安定感と崇高美、華麗さを兼ね備えた、天下の名塔である。</p> |                 |
| 2        | もくぞういせんおしょうぎぞう<br>木造惟仙和尚坐像・<br>もくぞうえにんおしょうぎぞう<br>木造恵仁和尚坐像 | 国重文            | <p>安楽寺の創立は慈覚大師ともいい、宗派は天台あるいは律宗とも考えられている。その後、信濃出身の僧・樵谷惟仙が臨済寺院として中興開山した(現在は曹洞宗)。境内の伝芳堂に、惟仙と開山二世幼牛恵仁の等身大の僧侶の椅像「頂相」が並んで祀られている。没後、弟子たちがその徳を慕い造立したもので、安楽寺が鎌倉と水準の禅宗文化を受容し、「信州の学海」として、修行僧を多数輩出していたことがうかがえる。</p>                                                    |                 |
| 3        | じょうらくじほんどう<br>常楽寺本堂                                       | 市建造物           | <p>天台宗別格本山。平安時代初めに慈覚大師が開創と伝え、樵谷惟仙をはじめ、多くの青年僧が学んだ「信州の学海」を支えた寺院として名高い。</p> <p>本堂は寄棟造、茅葺の建物で、江戸時代中期後半の建築で、本尊は大日如来の五つの智慧を表す五智如来の一尊である妙観察智阿弥陀如来である。</p>                                                                                                         |                 |

|   |                             |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                           |  |
|---|-----------------------------|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 4 | じょうらくじせきぞうたほうとう<br>常楽寺石造多宝塔 | 国重文                            | <p>石造多宝塔は弘長2年(1262)の作で、総高274.0cmの重厚で堂々とした風格や造り方は鎌倉期多宝塔の優品。塔が建てられている所は、北向観音の出現地といい、境内でもっとも神聖な場所とされる。</p> <p>多宝塔は大日如来を具現化したものとされ、太陽信仰の一端をも垣間見ることができる。</p>                                                                                                                   |  |
| 5 | きたむきかんのんどう<br>北向観音堂         | 未指定<br>(建造物)                   | <p>平安時代初期に比叡山延暦寺座主慈覚大師円仁が開いた霊場。北向きの本堂(本尊は千手観音菩薩像)は全国でもほとんど例が無く、南向きの善光寺本堂と相對している。「極楽往生」を願う善光寺と「両参り」し、ここで「現世利益」を祈ることで、御利益があるとされる。</p> <p>かつて参道脇に長楽寺(常楽寺、安楽寺とともに天台宗の「別所三楽寺」のひとつ)があったが、現在は常楽寺を本坊とする。昭和36(1961)年に善光寺本堂と同じく、「撞木造り」の建物として増改築された。なお、手水舎には境内から湧出している温泉が使われている。</p> |  |
| 6 | ぜんこうじじしんえま<br>善光寺地震絵馬       | 未指定<br>(有形民俗文化財)               | <p>「善光寺だけでは片参り」のいわれを伝える絵馬。北向観音で厄除札を受けた後、善光寺御開帳に向かった尾張の市之助が、門前宿で弘化4(1847)年の善光寺地震に遭遇した際に、北向観音で受けたお札が身代わりになってくれたおかげで、災難を逃れたという伝説を描いている。</p>                                                                                                                                  |  |
| 7 | あいぜん<br>愛染カツラ<br><br>(別所五木) | 市天然記念物<br><br>(未指定)<br>(天然記念物) | <p>神仏が姿を現した「影向の桂」といわれる霊木で、目通り幹囲5.8mの太さがある。ハート形の葉が珍しく、故川口松太郎原作の日活映画『愛染かつら』のモデルとなり、今でも縁結びの霊木として老若男女に親しまれている。</p> <p>別所温泉には他に、北向観音の夫婦杉〈夫婦円満〉、薬師堂のねじり紅葉〈素直な心〉、常楽寺の御船の松〈極楽浄土に導く〉、安楽寺の高野槇〈希望〉の霊木があり、「別所五木」と呼ばれて親しまれている。</p>                                                     |  |

|             |                           |        |                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |
|-------------|---------------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 8           | まいた せきぞうごりんとう<br>舞田の石造五輪塔 | 県宝石造物  | <p>五輪塔は、はじめ大日如来を尊ぶことから造られたといい、その後、身が高い人の供養塔として用いられるようになった。総高 212 cmの鎌倉時代の五輪塔の優品で、塩田平にたくさんある石造文化財の中でもひととき目立つ雄大な塔だ。</p> <p>地輪、水輪、火輪、風輪、空輪からなり、本例は風・空輪が一石で造られている。水輪には梵字「バン」（大日如来）が刻まれている。各部材の様式等からみて、鎌倉初期の建立と推定されている。</p> <p>文治2（1186）年この地に金王庵を創建した渋谷土佐入道昌順の墓塔と伝えられている。</p> |  |
| ■神宿る「山」への祈り |                           |        |                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |
| 9           | ぜんさんじさんじゅうのとう<br>前山寺三重塔   | 国重文    | <p>前山寺は塩田城の祈願寺と伝えられ、本尊は大日如来。三重塔は室町時代初期の造立とされ、初層と二層に掲げられた大日如来の額で金剛界五仏を表す。二層・三層目の勾欄が未完成であるにも関わらず、何の不調和感もなく、「未完成の完成塔」と絶賛される。荘厳な九輪の下、柿葺きの屋根が重なり合った美しい曲線が四季の山色に映え、その姿は、名塔の誉れを欲しいままにしている。</p> <p>真言宗の「信濃の四談林」のひとつであり、三楽寺とともに「信州の学海」としての役割を担った。</p>                             |  |
| 10          | ちがい石とその産地<br>いし さんち       | 市天然記念物 | <p>「ちがい石」は、2つの中性長石がX形に交わって晶出した鉱物で、ここ弘法山でしか産出しない。「誓い石」とも呼ばれ、弘法大師空海が「大切に保持すれば災厄から免れさせる」ことを誓ったという伝説を秘める。</p>                                                                                                                                                                |  |
| 11          | きいこうじあみだどう<br>西光寺阿弥陀堂     | 県宝建造物  | <p>弘法大師空海が大日如来像・阿弥陀如来像を彫刻し、小堂を建てたのが開創と伝え、鎌倉時代に塩田北条氏が開基となり、足利から実勝和尚を招いて開山とした。阿弥陀堂は室町後期の寄棟造の建物で、飾らない檜皮葺のシルエットが美しい。</p>                                                                                                                                                     |  |

|    |                                                |      |                                                                                                                                                                                                                          |  |
|----|------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 12 | ちゅうぜんじやくしどう<br>中禅寺薬師堂                          | 国重文  | <p>約 800 年前の建物と推定される中部日本最古の木造建築で、塩田平に仏教文化が根付いた時期を示すものだ。</p> <p>宝形造の素朴な茅葺屋根と青空とのコントラストが美しい。薬師如来像を祀る「薬師堂」であるが、「方三間の阿弥陀堂」形式の不思議な建物だ。</p>                                                                                    |  |
| 13 | ちゅうぜんじもくぞうやくしにょらいざう<br>中禅寺木造薬師如来坐像             | 国重文  | <p>薬師堂の本尊で、平安時代後期（藤原期）の「定朝様」に進取の鎌倉様式を取り入れた、いわゆる「藤末鎌初」の仏像。像高は 97.8 cm で、その台座（受座）には流鏑馬を描いた墨書戯画が見られる。塩田平に鎌倉から流入した仏教文化の影響を示す作品である。</p>                                                                                       |  |
| 14 | ちゅうぜんじもくぞうこんづうりきしぞう<br>中禅寺木造金剛力士像              | 県宝彫刻 | <p>薬師堂仁王門に安置された、平安時代末の信州最古の金剛力士像。寄木造で像高 207 cm のやや小振りの像だ。制作時期は薬師堂本尊とほぼ同じとみられ、この像から、当時、中禅寺が進取の様式により伽藍を整えていたことがうかがえよう。</p>                                                                                                 |  |
| 15 | まへやましおのじんじや<br>前山塩野神社<br>はいでんおよ ほんでん<br>拝殿及び本殿 | 市建造物 | <p>「延喜式」等に記載の古社で、独鈷山の北麓に鎮座し、かつては山上の鷲岩という巨岩に祀られていたという。</p> <p>棟札から、拝殿は寛保 3（1743）年のものとみられ、二階建ての「楼門造り」という珍しい建物だ。また、本殿は寛延 3（1750）年の建築と考えられ、「一間社流れ造り」の様式で、見事な龍の彫刻が目を引く。</p> <p>神が降る岩「磐座」と境内を流れる塩野川は、異空間に迷い込んだような錯覚を覚えさせる。</p> |  |
| 16 | ほうじゅうじこくぞうどう<br>法住寺虚空蔵堂<br>つけたり ずし<br>附 厨子     | 国重文  | <p>平安時代に創建されたと伝える天台宗の古刹。独鈷山を主峰とする虚空蔵信仰の山麓寺院（南麓）として捉えられる。堂全体は「和様」で造られているが、懸魚などには「禅宗様」の要素も見られ、室町時代中頃に造られた建物と考えられる。</p> <p>厨子の時代はお堂と同じ頃と考えられ、方一間入母屋造という禅宗様式独特の方式で造られている。中には虚空蔵菩薩坐像（室町時代・寄木造・像高 45.4 cm）が安置されている。</p>        |  |

|                      |                                                    |                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |
|----------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 17                   | 別所温泉の岳の幟行事<br>べっしょんせん たけ のぼりぎょうじ                   | 国選択無形民俗文化財                               | <p>永正元(1504)年に大旱魃に苦しんだ農民が、雨の神様に貴重な反物をささげて祈ったことが始まりとされ、嘉永2(1849)年「善光寺道名所図会」にも記される雨乞いのまつりである。</p> <p>本来は7月15日が祭日であるが、現在はそれに近い日曜日に行う。天に昇る龍を象った幟は、長さ約6mの青竹竿に赤・青・黄などの色鮮やかな布が取り付けられている。</p> <p>夫神岳の頂上に祀られた「霽」オカミ」九頭龍神の祠で住民代表が神事を行った後、降り龍の幟を先頭に70本もの幟が山を下る。麓で別所神社の神主総代や三頭獅子とささら踊りの一行と合流して温泉街を一巡する。</p> <p>平成10(1998)年に開催された長野冬季オリンピックの閉会式会場でも披露された。</p> |  |
| 18                   | 別所神社本殿<br>(神楽殿)<br>ほんちょうえんむすびおおかみのほくら<br>(本朝縁結大神祠) | 市建造物<br><br>(未指定)<br>建造物<br>(未指定)<br>建造物 | <p>別所温泉の北方、塩田平をはじめ遠く浅間連峰が望める小高い丘にある産土神。岳の幟行事の終着地である。</p> <p>建物は天明8(1788)年のものと思われ、安楽寺の山門など、塩田平の神社建築に多くの優れた作品を残した、上田房山の末野一族の手によるもの。</p> <p>なお、境内の立派な神楽殿や、本殿の背に祀られる「本朝縁結大神」なども貴重な文化財だ。</p>                                                                                                                                                          |  |
| 19                   | 鞍が淵と蛇骨石<br>くらあちじわこつし                               | 未指定<br>(名勝・天然記念物)                        | <p>鞍が淵の名は、独鈷山から落下した2つの大岩が折り重なって鞍のように見えることが由来だ。岩の間を流れる産川が造る淵には、かつて大蛇が住んでいたという。周辺で採取される蛇骨石(灰沸石)は独鈷山の岩石に含まれる鉱物で、色と形がヘビの骨に似ていることからこの名がある。</p> <p>「小泉小太郎」とは、大蛇を母とする大柄な男の子で、産川(鞍が淵)は小太郎が産み落とされた場所。この伝説は、大蛇は水の神であり、産川の源である独鈷山が水神として崇められていたことをうかがわせる。小泉小太郎伝説は、松谷みよ子の「竜の子太郎」のモデルとなった。</p>                                                                 |  |
| ■祈りの言葉は「アメ フラセタンマイナ」 |                                                    |                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |

|          |                            |                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |
|----------|----------------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 20       | 千駄焚き・百八手<br>せんたがき・ひやくはって   | 未指定<br>(無形民俗文化財) | 日照りの年に、山頂やため池の土手で、松明を点したり、藁の束などに火をつけ、「雨降らせタンマイナ」と唱える雨乞いの習俗である。祈りの方法は集落やため池ごとに、若干の違いがある。                                                                                                                                                                                             |  |
| 21       | 奈良尾石造大姥坐像<br>ならおせきぞうおおばざぞう | 市彫刻              | 大旱魃の際に、富士嶽で雨乞いをしたところ、忽ちのうちに雨が降ったので、御礼として、寛正 7 年 (1466) に造られたものという。その後、「祈りのかたち」は、この石像に願掛けをした千駄焚きや、石像を池の中に放り込むなどに変化した。祈りの言葉はここでも「雨降らせタンマイナ」だ。<br>怖い顔に反して「大姥さま」と親しみを込めて呼ばれる像は、写實的で迫力を感じる見事な石像である。                                                                                      |  |
| 22       | 保野の祇園祭<br>ほのやのぎおんさい        | 市指定無形民俗文化財       | 保野の集落は、中世には三斎市が立った塩田平の経済を支えた場所として知られる。保野塩野神社の祇園祭は、大凶作でまつりを休んだところ、疫病が大流行したため、その後は凶作でも休まずに続けてきた。<br>仮宮の市神に移られたお旅所前と、翌日午後に本社に帰られた広庭で、早乙女の揃い姿で踊るささら子の踊りと天狗と雄獅子 2 体、雌獅子 1 体による獅子踊りが舞われる。<br>凶作が行事の存続に関与した事例として注目されるまつりだ。                                                                 |  |
| ■未来への懸け橋 |                            |                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |
| 23       | 信濃国分寺跡<br>しなのこくぶんじあと       | 国史跡              | 天平 13 (741) 年の「国分寺建立の詔」により、信濃国分寺は上田に造られることとなり、770 年頃には伽藍が整備されたと推定される。寺伝には、承平 8 (938) 年の平将門と平貞盛の戦いの際に兵火で焼失したとある。<br>昭和 38 (1963) 年から 46 年に行われた発掘調査では、全国的にも稀な僧寺と尼寺が並ぶ伽藍配置と瓦、什器などの遺物が検出されるとともに、10 世紀頃の衰退の痕跡をも確認するなど、大きな成果を残した。この結果を元に史跡公園として整備された。<br>寺域の東北隅の高台に鎮座する国分神社が、レイラインの起点となる。 |  |

|    |                                 |      |                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |
|----|---------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 24 | 信濃国分寺本堂<br>しなのこくぶんじほんどう         | 長野県宝 | <p>天台宗の寺院で、本堂は薬師堂と呼ばれている。現在の信濃国分寺の境内は、天平の伽藍の北側の一段高い場所に、かつての僧寺と主軸線を合わせて整備されている。</p> <p>万延元（1860）年に竣工し、彫工は地元上沢村の竹内八十吉であり、龍や鳳凰の彫刻が見事である。</p>                                                                                                                          |  |
| 25 | 信濃国分寺三重塔<br>しなのこくぶんじさんじゅうのとう    | 国重文  | <p>寺伝では、建久 8（1197）年に源頼朝が善光寺参詣の帰途、寺の衰退を憂い、塔の復興を命じたという。建築様式から、室町時代に建立されたものと推定され、「和様」の外観は堂々と落ち着いた雰囲気呈している。</p> <p>第一層の大日如来が安置されている仏壇の鏡天井を囲む「如意頭文」は「禅宗様」の建物で用いられるもので、一層の内部は赤や緑の顔料で、鮮やかに塗られていた。</p> <p>別所温泉の安楽寺八角三重塔とともに大日如来が安置されたふたつの塔は、レイラインの発着点を示す象徴とされたのかもしれない。</p> |  |
| 26 | 信濃国分寺石造多宝塔<br>しなのこくぶんじせきぞうたほうとう | 市指定  | <p>高さ 152cm と常楽寺のものに比べるとやや小振りであるが、各部の様式・手法などから鎌倉期の多宝塔とされる。常楽寺のものがレイラインの終着点に置かれた塔だとすると、こちらは起点とされた塔なのかもしれない。</p> <p>屋根や塔身にある窪みは堅い石で叩いて粉にして飲むと病気が治るとか、お守りにすると良いという信仰の痕跡とみられる。</p>                                                                                     |  |
| 27 | 牛頭天王祭文<br>ぎずてんのうさいもん            | 市指定  | <p>信濃国分寺八日堂縁日（毎年 1 月 8 日）で頒布される「蘇民将来符」のいわれが記されている。この「祭文」の写しは全国で 4 通確認されているが、文明 12（1480）年に書写された国分寺のものが最古と判明した。</p> <p>牛頭天王は薬師如来が姿を現したものとされ、厄病除けの神として信仰され、やがて息災延命、七難即滅などの諸々の御利益が付け加わりながら信仰されてきた。</p>                                                                 |  |

|    |                                                                  |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |
|----|------------------------------------------------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 28 | <p>うえだしやうかどう<br/>上田市八日堂の<br/>そふんしやうらいふはんぶしやうぶく<br/>蘇民将来符頒布習俗</p> | 国選択無形民俗文化財   | <p>「蘇民将来符」は厄除けのお守りで、家の戸口に掛けたり、神棚に供えられる。泥柳（ドロヤナギ）の木を手彫りした六角錐形の護符だ。</p> <p>室町時代から制作されてきたといわれ、門前に家を構える人たちで作る「蘇民講」が重要な役割を果たしている。まず、師走の朔日に寺に集まり、木材から護符を「蘇民包丁」で切り出す「蘇民切り」を行う。</p> <p>寺で頒ける護符には、住職が大福・長者・蘇民・将来・子孫・人也の文字と魔除けの紋様を、墨と朱で六面に交互に描く。また、蘇民講の面々は、文字とともに、家それぞれにオリジナルの七福神の絵姿を描いた護符を作って頒布する。</p> <p>蘇民将来信仰は全国に見られるが、木製の護符を分けるところは少なく、蘇民講と寺の制作・頒布過程が他に見られない行事である。</p> |  |
| 29 | <p>やうかどうえんにちず<br/>八日堂縁日図</p>                                     | 市指定          | <p>描かれている信濃国分寺本堂の形状等から、江戸時代中期前半に描かれたものと推定され、写实的であり、当時の参詣風景等が分かる風俗史料として貴重である。</p> <p>この図からは「蘇民将来符」が頒ける姿や、農業に必要な種子や農具、生活必需品、浮世絵等の嗜好品が商われている様子がうかがえ、当時の人々の暮らしと祈りの一端が垣間見える。</p>                                                                                                                                                                                       |  |
| 30 | <p>どろみや<br/>泥宮</p>                                               | 未指定<br>(建造物) | <p>泥宮は字の如く「大地（泥）」を御神体とし、生島足島神社が創建された時に、遺霊をここに残したという。「泥宮」という呼称は寛政2（1790）年以降とされ、それまでは「諏訪大明神」であった。</p> <p>かつては生島足島神社の西鳥居とまっすぐな道で繋がっていたといい、御神体を同じくするこのふたつの神社は、深い関係があることを示す。</p> <p>神社はレイラインを構成する、聖地のひとつとして親しまれている。</p>                                                                                                                                                |  |

|    |                                                     |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |
|----|-----------------------------------------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 31 | いくしまたるしまじんじや<br>生島足島神社<br>ほんでんないでん<br>本殿内殿          | 県宝建造物 | <p>平安初期にまとめられた「延喜式」に載る古社で、生島大神と足島大神を祭神とする。御神体は「大地」であり、日本列島の真ん中に鎮座する神だ。</p> <p>寛政 11 (1799) 年に生島足島神社と社名を改めており、中世以降には「下之郷大明神」「諏訪法性大明神」などと呼ばれ、武田信玄や真田氏、歴代上田藩主の手厚い加護を受けた。</p> <p>生島大神と足島大神を祀る神社は全国的にも珍しく、近畿地方を中心に数社しかなく、東日本では皇居内宮中三殿とこのみである。</p> <p>太陽が夏至には東の鳥居の真ん中から上がり、冬至には西の鳥居の真ん中に沈むよう、鳥居が太陽の至点と一致するように配置されており、まさに「太陽」と「大地」を結ぶ神社だ。</p> <p>境内には夫婦櫓と呼ばれる樹齢 800 年を超えると推定される大木があり、良縁子宝等が祈願される。</p> |  |
| 32 | いくしまたるしまじんじや<br>生島足島神社<br>せつしや す わしやほんでん<br>摂社諏訪社本殿 | 市指定   | <p>棟札から、慶長 15 (1610) 年に藩主・真田信之が建てたことが判明している。諏訪神を祭神とし、雨神や農耕神ともされ、神格が龍や蛇、神使は蛇とされる。ここでは蛙が禁忌の動物であり、本殿との間にある神池では毎年正月の 1 月 15 日に蛙狩神事が行われる。境内には大蛇が住んでいて、神池には蛙はいないとされる。なお、神池は日によって色が違って見えるという。</p>                                                                                                                                                                                                     |  |
| 33 | いくしまたるしまじんじやもんじょ<br>生島足島神社文書                        | 国重文   | <p>武田信玄武将の起請文 (83 通) ほか信玄願文、真田信幸寄進状など 11 通、合計 94 通からなる古文書群。</p> <p>信玄が配下の武将に、謀叛しないことを誓わせた起請文や、越後の上杉謙信との戦いにあたって勝利を祈願した願文からは、信濃攻略を果たした信玄が、上杉との本格決戦に向けて神の加護を得ようとした心中を察することができる史料だ。</p>                                                                                                                                                                                                            |  |
| 34 | ちやうふくじどうぞうぼさつりゅうぞう<br>長福寺銅造菩薩立像                     | 国重文   | <p>長福寺「信州夢殿」の本尊として安置されている。アルカイクスマイルを特徴とする、像高 36.7 cm の小金銅仏で、7 世紀後半の白鳳時代の作品と考えられる。</p> <p>もとは上高井郡小布施町の旧家に伝わるものだったが、昭和 13 (1938) 年に長福寺に移された。</p>                                                                                                                                                                                                                                                 |  |

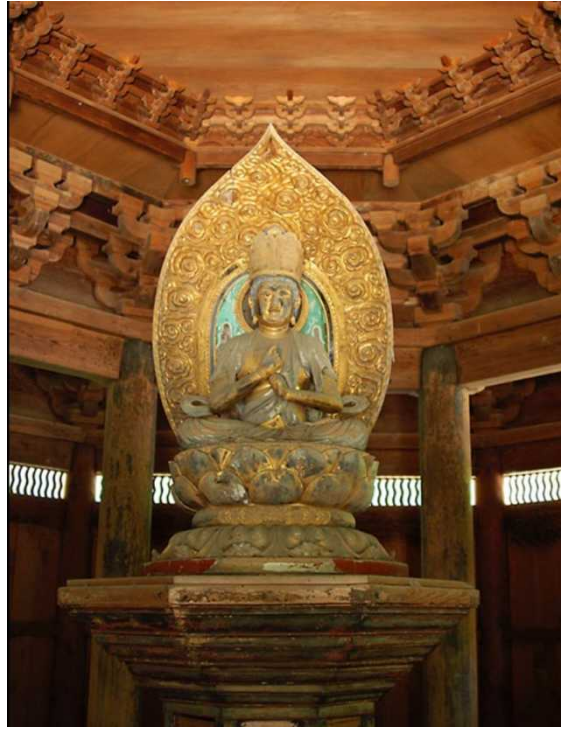
|    |                                           |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----|-------------------------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 35 | <small>べっしょせん てつどうしせつ</small><br>別所線の鉄道施設 | 未指定<br>(建造物) | <p> 蚕都上田を支えた鉄道網のうち、唯一現役なのが別所線。上田から別所温泉に至るこの路線は大正 10 年 (1921) に開通した。 </p> <p> 電車が上田駅を発つと間もなく真っ赤な鉄橋を渡って千曲川を渡る。この千曲川橋梁は、大正 13 年 (1924) の建設で、橋長は 224m。橋桁はプラットラス 5 連からなり、一番端の斜材 (コリョンストラット) を持っているのが特徴である。また、中塩田駅や別所温泉駅など、駅舎に近代の趣きを残す建物が多いことも特徴である。 </p> <p> 別所線の上田駅から別所温泉駅まで 11.6km の軌道は、下之郷駅から大きく西に曲がり、終点の別所温泉駅までの軌道は、まるでレイラインに沿って夫神岳に向かっているように見える。 </p> |
|----|-------------------------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

構成文化財の写真一覧

1 安楽寺八角三重塔



(塔内 大日如来坐像)



2 木造惟仙和尚坐像・木造恵仁和尚坐像



3 常楽寺本堂



4 常楽寺石造多宝塔



5 北向観音堂



7 愛染カツラ



6 善光寺地震絵馬





# 11 西光寺阿弥陀堂



10 ちがい石とその産地



12 中禅寺薬師堂



13 中禅寺木造薬師如来坐像

14 中禅寺木造金剛力士像



15 前山塩野神社本殿及び拝殿



16 法住寺虚空蔵堂 附 厨子



## 17 別所温泉の岳の幟行事



## 18 別所神社本殿



本殿の背後に鎮座する「本朝縁結大神」祠



## 19 鞍が淵と蛇骨石



鞍が淵



蛇骨石

20 千駄焚き・百八手



21 奈良尾石造大婆坐像



22 保野の祇園祭



23 信濃国分寺跡



26 信濃国分寺  
石造多宝塔



24 信濃国分寺本堂



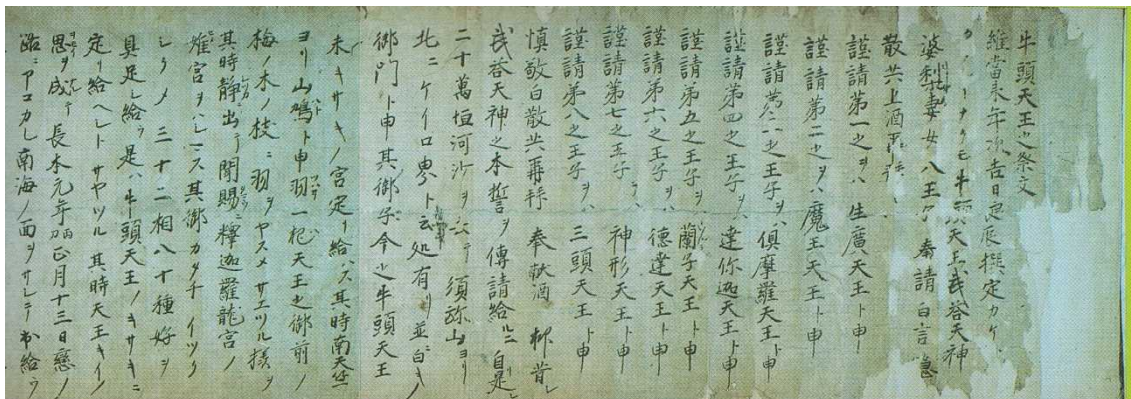
25 信濃国分寺三重塔



(塔内 大日如来坐像)



27 牛頭天王祭文 (冒頭部分)



28 上田市八日堂の蘇民将来符頒布習俗



## 29 八日堂縁日図



本堂前で 蘇民将来符を頒布する光景

## 30 泥宮



## 生島足島神社



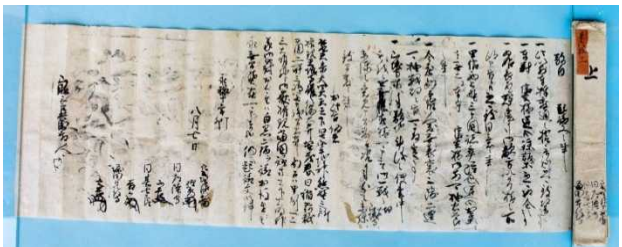
31 生島足島神社本殿内殿



32 生島足島神社摂社諏訪社



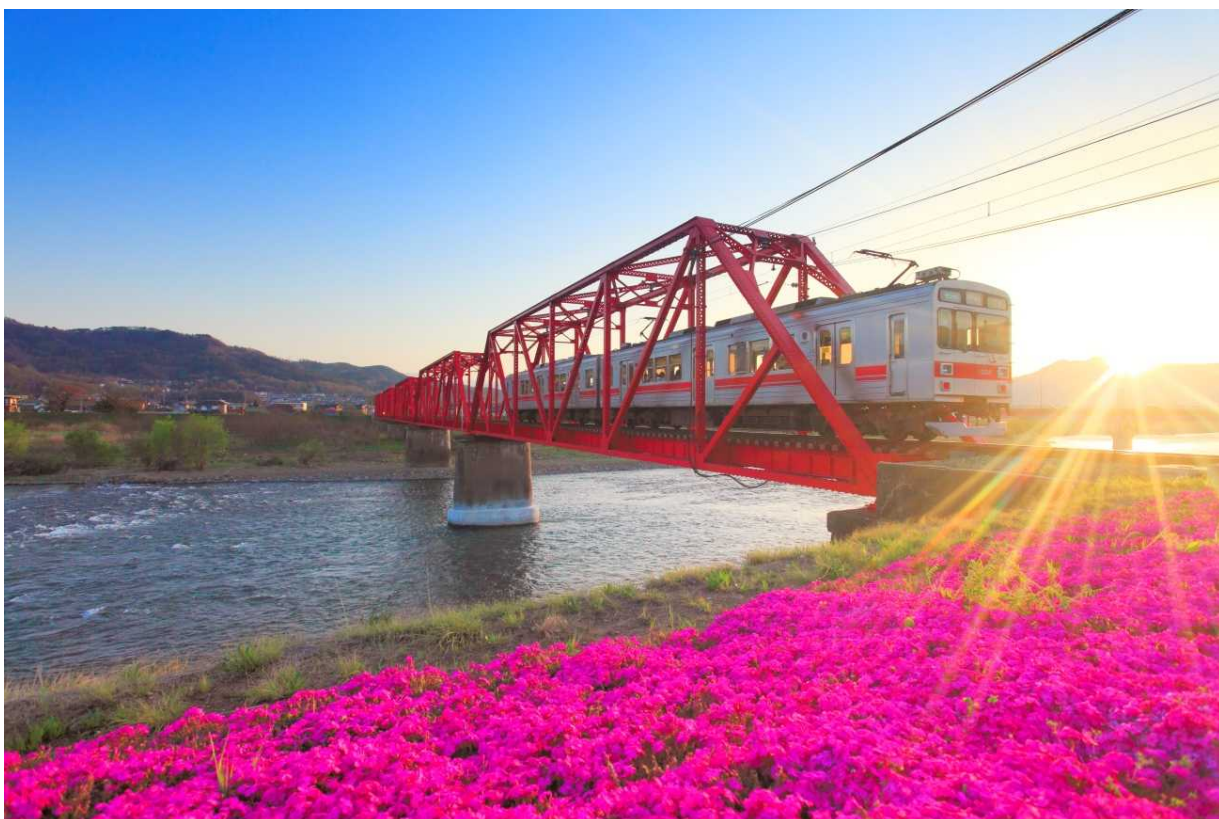
33 生島足島神社文書



34 長福寺銅造菩薩立像



35 別所線の鉄道施設



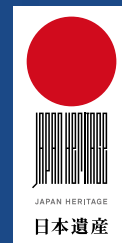


# レイラインがつなが 「太陽と大地の聖地」

～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～

## 「レイライン」とは、 夏至の朝日が照らす光の線

レイラインは、「大日如来（太陽）」を安置する信濃国分寺と「国土・大地」を御神体とする生島足島神社を直線状に結んでいる朝日が照らす光の線のことです。



令和二年  
日本遺産認定

# レイラインがつなが 「太陽と大地の聖地」

～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～

独鈷山と夫神岳から扇状に開ける地・塩田平は、古来「聖地」として、多くの神社仏閣が建てられている。山のふもとにある信州最古の温泉といわれる別所温泉、「国土・大地」を御神体とする「生島足島神社」、「大日如来（太陽）」を安置する「信濃国分寺」は、一本の直線状に配置され、レイラインをつないでいる。

夏至と冬至に、鳥居の中を太陽の光が通り抜け、神々しくぬくもりのある輝きを享受できるのだ。

先人たちが、この地が特別であると後世に伝えようと遺した様々な仕掛けは、今も、訪れる人びとにパワーをチャージさせる。

### 【構成文化財一覧】

#### 信州の学海

- ① 安楽寺八角三重塔
- ② 木造惟仙和尚坐像・木造恵仁和尚坐像
- ③ 常楽寺本堂
- ④ 常楽寺石造多宝塔
- ⑤ 北向観音堂
- ⑥ 善光寺地震絵馬
- ⑦ 愛染カツラ（別所五木）
- ⑧ 舞田の石造五輪塔

#### 神宿る「山」への祈り

- ⑨ 前山寺三重塔
- ⑩ ちがい石とその産地
- ⑪ 西光寺阿弥陀堂
- ⑫ 中禅寺薬師堂
- ⑬ 中禅寺木造薬師如来座像
- ⑭ 中禅寺木造金剛力士像
- ⑮ 前山塩野神社拝殿及び本殿
- ⑯ 法住寺虚空蔵堂 附 厨子
- ⑰ 別所温泉の岳の職行事
- ⑱ 別所神社本殿（神楽殿）（本朝縁結大神祠）
- ⑲ 鞍が淵と蛇骨石

#### 祈りの言葉は「アメ フラセタンマイナ」

- ⑳ 千駄焚き・百八手
- ㉑ 奈良尾石造大姥坐像
- ㉒ 保野の祇園祭

#### 未来への懸け橋

- ㉓ 信濃国分寺跡
- ㉔ 信濃国分寺本堂
- ㉕ 信濃国分寺三重塔
- ㉖ 信濃国分寺石造多宝塔
- ㉗ 牛頭天王祭文
- ㉘ 上田市八日堂の蘇民将来符頒布習俗
- ㉙ 八日堂縁日図
- ㉚ 泥宮
- ㉛ 生島足島神社本殿内殿
- ㉜ 生島足島神社摂社諏訪社本殿
- ㉝ 生島足島神社文書
- ㉞ 長福寺銅造菩薩立像
- ㉟ 別所線の鉄道施設



#### ■お問い合わせ

### 上田市日本遺産推進協議会

事務局／上田市役所 政策企画部 交流文化スポーツ課

TEL.0268-75-2005

E-mail: koryusports@city.ueda.nagano.jp

#### ■文化財に関するお問い合わせ

### 上田市教育委員会 生涯学習・文化財課

TEL.0268-23-6362

E-mail: shogaku@city.ueda.nagano.jp

日本遺産関連情報は  
下記QRコードから



日本遺産関連情報は  
下記QRコードから



長野県上田市

上田市日本遺産オリジナルロゴマーク



太陽と大地の聖地  
信州上田  
塩田平  
JAPAN HERITAGE



本事業は令和2年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）の補助を受けて実施しています。